

283  
別庫  
21

6. 2. 25

神宮皇學館一覽

自昭和五年三月  
至昭和六年三月

東京女子師範学校創立五週年記念文

東京女子師範学校創立五週年記念文  
 本校は明治二十二年五月に創立され、今日に至るまで五十年の歴史を歩いてまいりました。この間に、我が国女子教育の発展に多大の貢献をいたしました。この五十年の歴史を振り返ると、その歩みは決して平坦ではなかったと云うことができます。しかし、常に困難を乗り越え、進歩を遂げてきたのです。これは、創立者の志と、後進の努力とが結びついてきた結果です。



明治三十三年三月十八日

發行所寄贈本

神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下令旨

神宮皇學館教育ノ旨趣ハ皇國ノ道義ヲ講シ  
 皇國ノ文學ヲ修メ之ヲ實際ニ運用セシメ以テ倫  
 常ヲ厚クシ文明ヲ補ハムトスルニ在リ夫レ業勤  
 メザレバ精ナラズ事習ハザレバ達セズ況ンヤ  
 館期スル所ノ學ノ重且大ナルニ於テチヤ  
 本館學生深ク此旨ヲ體シ常ニ師長ヲ敬重シ館則  
 テ遵守シ黽勉努力以テ他日ノ成業ヲ期シ夙夜肯  
 テ怠ルコト勿レ



明治三十三年二月十八日

明治三十三年二月十八日

天皇陛下ノ御旨

神宮皇學館ハ我カ惟神ノ大道ヲ發揮シ建國ノ體制ヲ  
闡明シ尊皇崇祖ノ皇風ヲ宣揚スルヲ以テ教育ノ旨趣  
トシ創立以來殆ト四十年其ノ文教ニ裨益スル所亦大  
ナリト謂フヘシ  
今ヤ校舍改築ノ工事成リ規模益々廣ク施設愈々全力  
ヲムトス本館ノ職員及學生タルモノ現代ノ趨勢ト教  
育ノ旨趣トニ鑑ミ至誠以テ學事ニ勉勵シ更ニ國家ノ  
文運ニ貢獻センコトヲ期セヨ



神宮祭主暨副官秩憲王親王令旨

神宮皇學館

神宮祭主久邇宮多嘉王殿下令旨

283-21

神宮皇學館ハ我カ惟神ノ大道ヲ發揮シ建國ノ體制ヲ  
闡明シ尊皇崇祖ノ皇風ヲ宣揚スルヲ以テ教育ノ旨趣  
トシ創立以來殆ト四十年其ノ文教ニ裨益スル所亦大  
ナリト謂フヘシ  
今ヤ校舍改築ノ工事成リ規模益々廣ク施設愈々全力  
ヲムトス本館ノ職員及學生タルモノ現代ノ趨勢ト教  
育ノ旨趣トニ鑑ミ至誠以テ學事ニ勉勵シ更ニ國家ノ  
文運ニ貢獻センコトヲ期セヨ

大正八年十月十八日

大正八年十月十八日

文藝ニ資勉シクニシテ其ノ  
育ノ良道ヲ示シテ其ノ  
ヲムルニ本館ノ編輯員等  
全ク努メテ其ノ益ヲ求  
ルルニ當リテハ  
本館立以來今日に至リテ  
爾來ノ皇皇崇撫ノ皇恩  
神宮皇學館ノ存シテ其ノ

神宮皇學館主入殿官之儀王親  
為其百之百

# 神宮皇學館一覽

自昭和五年四月  
至昭和六年三月

## 目錄

第一章	學年曆	一
第二章	沿革	四
第三章	法令	一八
第一	神宮皇學館官制	一八
第二	神宮皇學館職員官等俸給令	一九
第三	神宮皇學館長特別任用令	二五
第四	恩給法施行令	二五
第五	神宮皇學館規程	二六
第六	官國幣社及神宮神部署神職任用令	二七
第七	府社縣社以下神社神職任用規則	二八
第八	教員無試驗檢定ニ關シ指定ノ件	二九

發行所寄贈本

目錄

一

第九	公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定	三九
第十	高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第二條第四號ニ依ル學校指定	三〇
第十一	高等學校教員規程	三一
第十二	高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ專門學校ニ準スヘキ學校指定	三二
第十三	在學徵集延期最高年齡	三三
第四章	本館諸規則	三四
第一	神宮皇學館規則	三四
第二	評議委員會規程	六一
第三	神宮皇學館普通科主事及生徒監設置ノ件	六二
第四	神宮皇學館館旗取扱規程	六三
第五	神宮皇學館處務規程	六四
第六	神宮皇學館館務分掌規程	六六
第七	神宮皇學館當直規程	七一
第八	神宮皇學館職員服務心得	七四

發行人 寄附本

第九	學業成績考査内規	七六
第十	神宮皇學館學生生徒服制	八一
第十一	神宮皇學館學生取締規則	八六
第十二	寄宿寮規則	八八
第十三	神宮皇學館學生生徒喪暇規程	九一
第十四	神宮皇學館館費生規則	九二
第十五	神宮皇學館圖書閱覽規程	九三
第十六	神宮文庫規程	九五
第十七	神宮文庫圖書閱覽規則	九七
第十八	神宮文庫當直規程	一〇〇
第十九	神宮參拜規程	一〇二
第二十	神宮參拜日及勅語捧讀日	一〇五
第二十一	創立記念日	一〇六
第五章	獎學金	一〇七



第一	恩賜獎學資金	一〇七
第二	寄附金	一〇七
第六章	本館出版圖書	一〇八
第七章	職員	一〇九
第一	本館職員	一〇九
第二	評議委員	一一四
第三	神宮文庫職員	一一五
第四	神宮文庫協議員	一一五
第五	神宮皇學館職員分課	一一六
第六	學級擔任	一一八
第七	職員異動	一一九
第八	前職員	一一九
第八章	學生生徒	一二八
第一	在學中退學者	一二八

第二	本科及普通科入學志願者及入學者本籍別表	一二九
第三	本科入學志願者及入學者父兄職業別	一三一
第四	本科入學志願者及入學者出身學校別	一三一
第五	學生生徒府縣別員數表	一四〇
第六	本科學生出身學校別表	一四二
第七	學生生徒生年別員數表	一四八
第八	學生生徒氏名	一五〇
第九	學生方面委員	一六〇
第十	精華寮委員	一六一
第九章	卒業生	一六二
第一	卒業生出身在職府縣別表	一六二
第二	卒業生科別統計並職業分類別表	一六四
第三	卒業生氏名	一六五
(一)	本科卒業生	一六五

附錄	(二)	目錄	六
	(三)	選修科卒業生	一九三
		專科卒業生	一九三
第一		神宮皇學館友會規約	二〇八
第二		神宮皇學館學友會會則	二〇九
第三		卒業生索引	二一四

## 第一章 學年曆

四月	一月一日	同日	四月十一日	四月十九日	四月二十九日	五月十三日	五月十四日	五月十七日	七月十日	七月十一日	七月二十四日
----	------	----	-------	-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	--------

### 第一章 學年曆

- 學年開始
- 春季休業始
- 神武天皇祭
- 春季休業終
- 第一學期始
- 天長節 (拜賀式)
- 本館創立記念日
- 神宮神御衣祭 (神拜式)
- 神宮月次祭 (神拜式)
- 本科第一學期終
- 本科夏季休業始
- 普通科第一學期終

第二章 學年曆

二十五日

八月三十一日

九月一日

秋分ノ日

十月十四日

十六日

十七日

三十日

十一月三日

二十三日

十二月十七日

二十四日

二十五日

同日

同科夏季休業始

夏季休業終

第二學期始

秋季皇靈祭 (遙拜式)

神宮神御衣祭 (神拜式)

神宮嘗祭 (豐受大神宮參拜)

同 (皇大神宮參拜)

勅語捧讀式

明治節 (拜賀式)

新嘗祭 (兩大神宮參拜)

神宮月次祭 (神拜式)

第二學期終

大正天皇祭

冬季休業始

翌年

一月一日 新年拜賀式

一月三日 元始祭

一月五日 新年宴會

一月十日 冬季休業終

一月十一日 第三學期始

二月十一日 紀元節 (拜賀式)

三月十七日 神宮祈年祭 (兩大神宮參拜)

三月春分ノ日 春季皇靈祭 (遙拜式)

三月三十一日 第三學期終

同日 學年終

第一章 學年曆

## 第二章 沿革

本館ハ明治十五年四月 神宮祭主朝彦親王殿下ノ令旨ニヨリテ、神宮神官ヲシテ皇學ヲ研究セシメンカ爲メ、林崎文庫内ニ設置セラレタルヲ以テ創始トナス

同十六年五月權宮司藤岡好古令旨ヲ奉シテ之ヲ擴張シ、内務省ノ認可ヲ受ケ、科ヲ上中下ノ三級ニ分チ將來神宮神官ニ充ツヘキ人材ヲ養成セムコトヲ計ル

同十八年一月宮司鹿島則文規則ヲ改正シ、禰宜御巫清直ニ教授ヲ命シ、以下新ニ職員ヲ置キ、廣ク學生ヲ募リ、同月十一日ヲ以テ開講式ヲ舉ク、科ヲ豫備、中等、上等ノ三級ニ分ツ

同二十年四月更ニ規則ヲ改正シ、科ヲ尋常、高等ノ二科ニ分チ、尋常科ノ修業年限ヲ四ケ年トシ、高等科ノ修業年限ヲ四ケ年トス、同月中田正朔ヲ館長ニ、東吉貞ヲ教頭ニ、下田義天類ヲ副教頭兼教授ニ、孫福弘坦ヲ幹事ニ命シ、以下大ニ職員ヲ增加ス、十月宇治浦田町ニ校舍ヲ新築シ此ニ移轉ス

同二十一年二月寄宿舎ヲ宇治浦田町ニ新設ス、五月規則ノ一部ヲ改正ス

同二十三年五月始メテ卒業證書授與式ヲ舉ク、八月規則ヲ改正シ、尋常科ヲ豫科ト改メ、其修業年限ヲ一ケ年トシ、高等科ヲ本科ト改メ其修業年限ヲ四ケ年トナシ、又別ニ選科ヲ設ケ、志望者ヲシテ古典、

國文、國語ノ三科ヲ修メシム、同月職制ヲ改正シ、專任館長ヲ廢シ、神宮正權宮司ノ兼任トナシ、又別ニ參事員ヲ置キ重要事項ノ諮詢ニ與ラシム

同二十五年二月館費生及特別研究生ヲ置キ、學力品行共ニ優等ナルモノヲ選拔シ食費ヲ給シテ修學セシム、三月更ニ職制ヲ改メ、參事員ヲ廢シテ委員ヲ置ク、十二月十文字重光ヲ幹事トナス

同二十六年九月新ニ研究科竝ニ專科ヲ設ク、研究科ハ本科卒業生ヲシテ高等ノ學科ヲ研究セシメ、其修業年限ヲ二ケ年トス、專科ハ簡易速成ヲ主トシ其修業年限ヲ二ケ年トナス

同二十七年四月權宮司岡部讓副館長ヲ兼ヌ、五月教授木野戶勝隆ニ教頭ヲ命ス、七月館則ヲ改正シ、總裁、館長、副館長、評議員、理事、教頭、教授等ノ職ヲ置キ、總裁ニハ神宮祭主ヲ推戴シ、館長ニハ神宮宮司ヲ以テ之ニ充ツ、同九月内務省訓令ヲ以テ、本科卒業生ハ官國幣社宮司權宮司ニ、專科卒業生ハ同禰宜以下ニ、試験ヲ要セス採用セラル、事ヲ得ヘキ旨規定セラル

同二十九年二月規則ヲ改正シ、科ヲ本科、豫科及專科トシ、修業年限ヲ本科ハ四ケ年、豫科ハ五ケ年、專科ハ二ケ年トシ、入學資格ヲ、本科ハ本館豫科卒業生又ハ各府縣尋常中學校卒業生若クハ年齢十八歳以上ニシテ入學試験ニ及第セル者トシ、豫科ハ高等小學校第三學年修業以上ノ者トシ、專科ハ豫科第三學年修業以上又ハ各府縣尋常中學校第三學年修業以上ノ者、若クハ年齢十六歳以上ニシテ入學試験ニ及

第セル者トス、三月職制ヲ改正シ、總裁、館長、副館長、幹事、教頭、教授、助教授、舎監、書記ヲ置ク、依テ神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下ヲ總裁ニ推戴シ、宮司鹿島則文館長ヲ、權宮司岡部讓副館長ヲ兼スルコト前ノ如シ、同月地ヲ宇治館町ニトシ校舍改築ニ着手ス、四月神宮禰宜山田岩次郎ニ幹事ヲ命ス、同月矢島錦藏ニ教授兼教頭ヲ命ス、十二月校舍新築功竣ルヲ以テ移轉ス、學館ノ規模稍定ル

同三十年二月幹事山田岩次郎職ヲ辭シ、神宮禰宜桑原芳樹ニ幹事ヲ命ス、四月教授兼教頭矢島錦藏職ヲ辭ス、六月尾田信直ニ教授兼教頭ヲ命ス、同月十三日新校舍開館式ヲ舉ク、總裁賀陽宮邦憲王殿下台臨、內務大臣樺山資紀臨場セラル

同三十一年六月神宮宮司伯爵冷泉爲紀館長ヲ兼ヌ、十二月權宮司桑原芳樹副館長ヲ兼ヌ、同月文部省告示ヲ以テ、徵兵令第十三條ニ依リ、本科及豫科ヲ中學校ノ學科課程ト同等以上ト認メラル、同月職制ヲ改正シ、教監ヲ設ケ、教頭ヲ幹事ノ上ニ置キ、舎監ヲ學生監トシ、大ニ職員ヲ淘汰シ、教監ヲ男爵細川潤次郎ニ囑託ス

同三十二年一月教授木野戶勝隆ニ教頭ヲ、教授矢野萬太郎ヲ幹事ヲ命ス、同月三重縣立第四中學校設立ノ舉アルニヨリ、本館教育方針ノ一部ヲ變更シ、中學程度ノ豫科ヲ廢シ、在學生ヲ舉ケテ同中學校ニ移シ、専ラ本科擴張ノ計畫ヲ立ツ、八月學則ヲ改正シ、専科ノ修業年限ヲ三ケ年トシ、又特待生、貸費生、

館費生等ノ制ヲ設ク、同月教授兼教頭木野戶勝隆ノ兼職ヲ解キ、教授黒木千尋ニ教頭心得ヲ命ス、同九月文部省指令ヲ以テ、本科卒業生ニ對シ無試験檢定ニヨリ師範學校中學校高等女學校ノ日本史料及國語科教員タルノ資格ヲ與ヘラル、十一月學生取締規則ヲ定メ、寄宿寮規則及學生學資保管規程ヲ設ク

同三十三年二月十八日總裁神宮祭主賀陽宮邦憲王殿下台臨アラセラレ令旨ヲ賜ハル、五月御眞影竝ニ教育ニ關スル勅語謄本ヲ下賜セラル、九月文部省指令ヲ以テ、本科卒業生ニ對シ無試験檢定ニヨリ師範學校中學校高等女學校ノ國語漢文科及歴史科教員タル資格ヲ與ヘラル

同三十四年一月選修科規程ヲ設ケ、専科卒業生及其他ノ志望者ヲシテ本科學科ノ中ニ就キ隨意ニ選修スル事ヲ得シム

同三十五年二月神職任用令ニヨリ本科卒業生ハ奏任待遇ノ神職ニ、専科卒業生ハ判任待遇ノ神職ニ試験ヲ要セスシテ任用セラル、コトヲ得ヘキ旨規定セラル

同三十六年三月教授兼教頭黒木千尋ノ職ヲ解キ、教授尾崎八束ニ教頭心得ヲ命ス、八月勅令ヲ以テ、神宮皇學館官制ヲ公布セラル、同官制第三條ニ依リ神宮少宮司桑原芳樹館長ヲ兼ヌ、教授尾崎八束ニ教務主任ヲ命シ、大ニ職員ヲ增加ス、同月勅令ヲ以テ、職員官等俸給令ヲ公布セラル、十二月文部省告示ヲ以テ、本科卒業生ハ無試験檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ歴史科及國語漢文科教員タルノ資格

ヲ與ヘラル

同三十七年四月規則ノ一部ヲ改正シ、専科ヲ二學年トナシ、選修科ノ入學資格ヲ専科卒業生ニ限定ス、九月教授尾崎八束ノ教務主任ヲ罷メ、教授矢島錦藏ニ同主任ヲ命ス

同三十八年五月事務分掌規程ヲ改正シ、館務ヲ教務部、庶務部、學生監部ノ三部トナシ、教授矢島錦藏ニ教務部長ヲ、書記金剛幸之助ニ庶務部長ヲ、教授湯淺廉孫ニ學生監部長ヲ命ス、七月本館學生服制ヲ定ム

同三十九年三月本館接續ノ地ヲ購入シ構外運動場ヲ開設ス

同四十年五月史學研究ノタメ本科卒業生森田實ニ二箇年間獨逸國ニ留學ヲ命ス、九月文部省告示ヲ以テ本科卒業生ハ公私立實業學校教員タル資格ヲ與ヘラル

同四十一年二月教授矢島錦藏ノ教務部長ヲ解キ、教授尾崎八束ニ教務部長ヲ命ス

同四十三年三月神宮少宮司桑原芳樹休職、神宮少宮司木野戶勝隆館長ヲ兼ヌ、三月勅令ヲ以テ職員官等俸給令ヲ改正セラル、四月獨逸國ニ留學中ノ森田實歸朝ス、十一月十四日 皇太子殿下台臨親シク授業ヲ台覽アラセラレ御寫眞ヲ下賜セラル

同四十四年五月 皇后陛下神宮御參拜ノ節、獎學ノ思召ヲ以テ特ニ金五百圓ヲ下賜セラル

同四十五年四月三十日本館創立滿三十年記念式典ヲ舉行ス、文學博士松本愛重内務大臣代理トシテ臨場ス、二日間ニ亘リ記念講演會竝ニ神宮ヲ中心トスル史料展覽會ヲ開キ又記念陸上大運動會ヲ催ス、東京帝國大學教授文學博士上田萬年學習院教授文學博士松本愛重京都帝國大學教授文學博士三浦周行同文學博士新村出講演ス

大正元年十一月本館規則ノ一部ヲ改正ス、同月教授尾崎八束ノ教務部長ヲ解キ、教授森田實ニ教務部長ヲ命ス、又新ニ學科主任ヲ設ケ、教授尾崎八束ニ歴史科主任、教授湯淺廉孫ニ漢文科主任、教授安藤正次ニ國文科主任ヲ命ス、同十二月二十二日事務室壹棟火災ニ罹リ重要書類殆全部烏有ニ歸ス

同二年一月教授湯淺廉孫ノ學生監部長ヲ解キ、助教宇仁義一ニ學生監部長事務取扱ヲ命ス、二月學生取締規則ノ一部ヲ改ム、四月本館規則ノ一部ヲ改メ體操科ニ柔道ノ一科ヲ追加ス、同月館務分掌規程ヲ改正シ、教授森田實ニ教務部長、書記金剛幸之助ニ庶務部長、助教宇仁義一ニ學生監部長事務取扱ヲ命ス、五月本館圖書閱覽規程ヲ定ム、九月勅令ヲ以テ本館官制竝ニ職員官等俸給令ヲ改正セラレ、新ニ館長特別任用令ヲ發布セラル、從三位勳三等武田千代三郎館長ニ任セラル、同月官制第八條ニ依リ、内務省ヨリ神社局長法學博士井上友一、京都帝國大學總長澤柳政太郎、東京帝國大學文科大學長文學博士上田萬年、東京帝國大學文科大學教授文學博士三上參次、文部省普通學務局長田所美治、東京帝國大學文

科大學教授文學博士萩野由之、學習院教授文學博士松本愛重ニ本館評議委員ヲ囑託セラル、十月本館教官退隱金給與ニ關スル規程ヲ設ケ、神宮參拜日及勅語捧讀日規程ヲ改正ス、同月助教宇仁義一ノ學生監部長事務取扱ヲ解キ、教授學生監阪本廣太郎ニ學生監部長ヲ命ス、同月處務規程ヲ定メ、十一月更ニ其一部ヲ改正ス、同月事務室新築工竣リ移轉ス、十二月職員服務心得ヲ定ム

同三年一月處務規程ノ一部ヲ改正ス、二月學寮規則ノ一部ヲ改ム、三月本館規則ノ一部ヲ改正シ、各學科目並ニ其程度及授業時間ノ配當ヲ改メ休業日ヲ短縮ス、四月學生取締規則ヲ改正ス、五月神宮參拜日ヲ改正ス、七月本館教官退隱金給與年數加算ノ件ヲ定ム、九月教授森田實ニ歴史科主任ヲ命ス、十月神宮參拜日並ニ處務規程ヲ改正ス、十二月教授阪本廣太郎ノ學生監部長ヲ免ス

同四年一月教授學生監増子懷永ニ學生監部長ヲ命ス、三月本館規則ノ一部ヲ改正ス、五月寄宿寮規則ヲ改正ス、七月特別試驗規程並ニ學生生徒休暇規程ヲ定ム、同月本館規則ノ一部ヲ改正シ、專科ヲ第一部(四ヶ月修了) 第二部(十一ヶ月修了)ノ二部ニ分チ、併セテ學科課程表ヲ定ム、同月 皇太子殿下神宮御參拜ノ節、特別ノ思召ヲ以テ獎學資金トシテ金參百圓下賜セラル、同月圖書閱覽規程ヲ改正ス、八月館費生及貸費生規則並ニ學生學資保管規程ヲ廢止シ、學生服制及處務規程ヲ改正ス、同月新ニ館費生規則ヲ定ム、十月 天皇陛下御眞影ヲ下賜セラル

同五年三月處務規程並ニ學生服制ノ一部ヲ改正ス、五月內務省ヨリ、神社局長塚本清治、從四位勳二等法學博士水野鍊太郎ニ本館評議委員ヲ命セラル、六月教授増子懷永ニ國文科主任ヲ命ス、十月教授學生監鈴木暢幸ニ學生監部長並ニ國文科主任ヲ命ス、十一月 皇后陛下御眞影、皇太子殿下御寫眞ヲ下賜セラル、十一月本館移轉改築工事ニ着手ス

同六年一月職員服務心得ノ一部ヲ改正ス、七月本館規則ノ一部ヲ改正ス、十二月本館寄宿寮規則ヲ改正ス 同七年一月本館改築工事中ノ一部竣功セルヲ以テ度會郡濱郷村大字神田久志本ニ移轉ス、二月本館改築ノ趣被聞食特別ノ思召ヲ以テ改築費中へ金貳萬圓ヲ下賜セラル、四月館長武田千代三郎願ニ依リ本官ヲ免セラレ、神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ命セラル、五月從四位勳四等松浦寅三郎館長ニ任セラレ、神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ免セラル、八月教授鈴木暢幸ノ學生監部長ヲ解キ、教授學生監湯淺廉孫ニ學生監部長ヲ命ス

同八年一月書記金剛幸之助ノ庶務部長ヲ解キ、教授阪本廣太郎ニ庶務部長ヲ命ス、二月寄宿寮規則ノ一部ヲ改ム、同月館長松浦寅三郎皇子傅育官長ニ任セラレ、神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ命セラル、三月本館規則ノ一部ヲ改正シ、專科ノ修業年限ヲ二ケ年トナス、同月本館學生生徒服制ヲ改正ス、同月文部省令ヲ以テ高等學校教員規程第九條試驗檢定資格者中ニ本館本科卒業者ヲ加ヘラル、六月東京帝國

大學教授從三位勳二等文學博士上田萬年館長ニ兼任ヲ命セラレ、神宮少宮司今井清彦館長事務取扱ヲ免セラル、十月本館改築落成式ヲ行フ、神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラレ親シク令旨ヲ賜フ、十二月本館研究室内規及教授會規程ヲ定ム

同九年三月本館規則ノ一部ヲ改正シ寄宿生舍費ノコトヲ定ム、五月閑院宮春仁王殿下神宮御參拜ノ途次台臨アラセラル、六月賀陽宮恒憲王殿下神宮御參拜ノ途次台臨、武道試合竝ニ運動競技ヲ台覽アラセラル、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル、十月書庫ヲ新倉庫ニ移シ圖書閱覽室ヲ擴張ス、十二月東京帝國大學教授法學博士筧克彦京都帝國大學教授文學博士新村出ニ臨時講師ヲ囑託シ神道竝ニ國語學ニ就キ科外講義ヲ行フ

同十年三月本館規則ノ一部ヲ改正シ、專科ノ學科ニ教育、地理、理科、圖書ヲ加ヘ簿記ヲ削ル、同月京都帝國大學教授文學博士坂口昂同理學博士小川琢治ニ臨時講師ヲ囑託シ史學竝ニ地理學ニ就キ科外講義ヲ行フ、同月本館研究室ニ於テ伊勢國出版圖書展覽會ヲ開ク、四月教授學生監石井鹿之助ニ學生監部長心得、教授千田憲ニ圖書主任、教授久保川平三郎ニ專科主任ヲ命ス、五月東京帝國大學教授文學博士瀧精一ニ臨時講師ヲ囑託シ美術史ニ就キ科外講義ヲ行フ、九月文部省告示ヲ以テ本館ヲ高等學校教員規程第九條第二項ニヨリ專門學校ニ準スヘキ學校ト指定セラル

同十一年四月寄宿寮規則ヲ改正ス、六月本館規則ノ一部ヲ改正シ、檢定料ノ増額、休學ニ關スル規程等ヲ定ム、九月教授阪本廣太郎ノ庶務部長ヲ解キ、教授森田實ニ庶務部長兼務ヲ命ス、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル、十一月 皇后陛下行啓親シク授業ノ實況ヲ台覽アラセラレ特別ノ恩召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜セラル、同月神宮文庫ヲ神宮皇學館長ノ管理ニ移サル、十二月教授竹島寛ニ神宮文庫主幹ヲ命ス

同十二年一月上田館長文部省ヨリ歐洲ニ出張ヲ命セララル、二月教授竹島寛ノ神宮文庫主幹ヲ、教授千田憲ノ圖書主任ヲ解キ、更ニ教授千田憲ニ神宮文庫主幹ヲ、教授西村爲之助ニ圖書主任ヲ命ス、同月教授森田實ニ神宮皇學館長上田萬年歐洲出張不在中同館長代理ヲ命セララル、四月文學博士井上哲次郎ニ臨時講師ヲ囑託シ神道ニ關スル科外講義ヲ行フ、本年度ヨリ專科生徒ヲ募集セス、八月恩給法施行令第六條ニヨリ本館職員ニシテ官吏タルモノハ文官ト認メララル、九月上田館長歸朝ス

同十三年四月造神宮使廳技師大江新太郎ニ臨時講師ヲ囑託シ神社建築ニ就キ科外講義ヲ行フ、五月文部省告示ヲ以テ本科卒業生ヲ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定セラル、八月東京帝國大學教授法學博士筧克彦同助教澤宗壽文部省囑託安藤正次神宮皇學館講師本村春太郎ニ講師ヲ囑託シ卒業生ヲ主體トスル夏期講習會ヲ開催ス、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下



台臨、武道大會ヲ台覽アラセラル

同十四年五月久邇宮邦彦王殿下、同妃殿下台臨、授業ヲ台覽アラセラル、八月陸軍省ヨリ軍事教練實施ニ伴ヒ現役將校ヲ配屬セラル、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル

同十五年二月本館規則ヲ改正シ、専科ヲ廢シ、本科ノ組織ヲ變更シ、第一學年第二學年ハ共通ニ、第三學年第四學年ヲ第一部第二部ニ分チ、併セテ學科課程表ヲ定メ、更ニ本科ノ上ニ研究科(修業年限一ケ年)ヲ置ク、三月勅令ヲ以テ本館官制中改正セラレ、教授ノ定員ヲ増シ助教ノ定員ヲ減セラル、同月東京帝國大學教授兼神宮皇學館長上田萬年依願兼官ヲ免セラレ、神宮皇學館教授正五位勳四等森田實館長兼教授ニ任セラル、四月內務省ヨリ東京帝國大學教授上田萬年ニ本館評議委員ヲ囑託セラル、同月教授鈴木暢幸ニ教務部長、教授西村爲之助ニ庶務部長ヲ命ス、五月教授學生監鈴木友吉ニ學生監部長心得ヲ命シ、教授石井鹿之助ノ學生監部長心得ヲ解ク、七月神宮文庫規程及神宮文庫圖書閱覽規則竝ニ神宮皇學館々務分掌規程ヲ改正シ神宮文庫主幹ヲ廢シ、新ニ本館ニ圖書部長ヲ置ク、教授千田憲ニ圖書部長ヲ命ス、八月本館教室増築竣工、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、教練及武道試合ヲ台覽アラセラル、十一月暹羅國ブラオン・カオ・ダーニ親王殿下、シツパン女王殿下台臨、各所ヲ視察遊ハサル

昭和二年二月勅令ヲ以テ神宮皇學館官制中改正セラレ教諭ヲ加ヘ、教授及書記ノ定員ヲ増員セラル、同

月勅令ヲ以テ高等官官等俸給令中改正セラレ神宮皇學館教諭ヲ加ヘラル、三月內務省訓令ヲ以テ神宮皇學館規程ヲ定メラレ新ニ普通科(修業年限四ケ年)ヲ置ク、同月普通科設置ニツキ本館規則ヲ改正ス、四月教諭宇仁義一ニ普通科主事ヲ命ス、五月普通科授業ヲ開始ス、同月教授千田憲ニ教務部長兼圖書部長ヲ、學生監部長心得教授鈴木友吉ニ學生監部長ヲ命ス、同月學生々徒服制ノ一部ヲ改正ス、六月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、親シク授業ヲ台覽アラセラル、十月研究室、兵器室模様替及新築竣工、同月子爵高倉永則ニ臨時講師ヲ囑託シ衣紋ニ關シ科外講義ヲ行フ、十二月神宮文庫協議員ヲ設置セラル

同三年一月寄宿寮規則ノ一部ヲ改正ス、三月勅令ヲ以テ神宮皇學館官制中一部改正セラレ教授及教諭ノ定員ヲ増員セラル、同月文部省告示ヲ以テ、本科第一部卒業生ハ無試験檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ修身、國語、漢文科、同第二部卒業生ハ修身、歴史科教員タル資格ヲ與ヘラル、同月學生々徒ノ服制ヲ改正ス、同月教諭木村春太郎ニ普通科主事ヲ命ス、同月講堂竝特別教室竣工、五月陸軍省告示ヲ以テ本科竝普通科ヲ兵役法施行令第百條第二號ニ該當スル學校トシテ徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齢ヲ指定セラル、同月講堂落成式ヲ行フ神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラル、落成記念ノ爲伊勢參宮資料展覽會竝公開講演會ヲ開ク、東京帝國大學名譽教授文學博士上田萬年京都帝國大學教授文學博士藤井健次郎內務省考證官文學博士宮地直一本館教授木村春太郎講演ヲナス、十月御眞影ヲ下賜セラル、十

一月東京帝國大學名譽教授文學博士服部宇之吉ニ臨時講師ヲ囑託シ儒教、倫理綱要ニ關シ科外講義ヲ行フ、同月教授千田憲ノ圖書部長ヲ解キ、教授竹島寛ニ圖書部長ヲ命ス、教授千田憲ニ國文科主任、教授竹島寛ニ歴史科主任、教授町田久一郎ニ英語科主任ヲ命ス

同四年二月東京帝國大學教授文學博士黑板勝美ニ臨時講師ヲ囑託シ國史ニ關スル科外講義ヲ行フ、同月普通科學寮新築竣工ス、三月勅令ヲ以テ神宮皇學館官制中一部改正セラレ、教諭及書記ノ定員ヲ増員セラル、四月圖書部ヲ神宮文庫内ニ移轉ス、同月本科學生九十名館長以下職員七名附添大阪市城東練兵場ニ於ケル御親閱式ニ參列ス、五月館旗取扱規程ヲ制定ス、六月教授西村爲之助ノ庶務部長ヲ解キ、助教兼教諭金剛幸之助ニ庶務部長ヲ命ス、八月子爵高倉永則、山科言綏、京都府々社御靈神社々司出雲路通次郎、神宮禰宜阪本廣太郎、同中西健郎、本館講師青戸波江、同教諭三東義邦ニ講師ヲ囑託シ神社祭式師範教育並衣紋講習會ヲ開催ス、九月東京帝國大學教授文學博士鹽谷温ニ臨時講師ヲ囑託シ漢文學ノ新研究ニ關シ科外講義ヲ行フ、十月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨、陸上競技大會ヲ台覽アラセラル

同五年二月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下台臨アラセラル、三月勅令ヲ以テ神宮皇學館官制中一部改正セラレ、教諭ノ定員ヲ増員セラル、同月神宮祭主久邇宮多嘉王殿下、同妃殿下、同王子殿下、同王女殿下台臨アラセラル、四月助教金剛幸之助勲績滿二十五年祝賀式ヲ舉行ス、六月東京國教學館長東洋大學講師田中

治吾平、本館教授鶴藤幾太ニ講師ヲ囑託シ神社問題ニ關スル講習會ヲ開催ス、七月運動場擴張用地トシテ神田久志本ニ地所三段八畝十歩ノ土地ヲ購入ス、八月東京帝國大學史料編纂官文學博士山本信哉、京都帝國大學教授文學博士三浦周行、東京帝國大學教授文學博士深作安文、本館教授木村春太郎ニ講師ヲ囑託シ皇道ニ關スル夏季講習會ヲ開催ス、同月神宮皇學館長兼教授森田實依願本官並兼官ヲ免セラレ、福岡縣書記官正五位勳四等平田貫一館長ニ任セラル

### 第三章 法令 第一 神宮皇學館官制

#### 第一 神宮皇學館官制

(明治三十六年八月二十九日)  
勅令 第三百三十號

(沿革) 大正二年九月五日勅令第二七六號、同十五年三月二十九日同第二一號、昭和二年二月二十八日同第二一號、同三年三月二十八日同第四二號、同四年三月十八日同第八號、同五年三月十九日同第三八號改正

##### 神宮皇學館官制

第一條 神宮司廳ニ神宮皇學館ヲ置ク

第二條 神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 勅任又ハ奏任

教授 專任十五人奏任

助教授 專任五人判任

學生監 三人

教諭 專任三人奏任  
專任五人判任

書記 專任五人判任

第三條 館長ハ大宮司ノ指揮ヲ承ケ館務ヲ統理ス

第四條 教授及助教授ハ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ教育ヲ掌ル

第五條 學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ之ヲ充ツ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 教諭ハ館長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ教育ヲ掌ル

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 内務大臣ハ館務ノ必要ニ依リ評議委員會ヲ設ケシムルコトヲ得其ノ委員ハ神宮大宮司ノ具申ニ

依リ内務大臣之ヲ命シ又ハ囑託ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 第二 職員官等俸給

○高等官官等俸給令(明治四十三年三月二十六日)  
勅令 第三百三十四號(抄出)

(沿革) 昭和二年二月二十八日勅令第二二號改正

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第八條 勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ○中

神宮皇學館長 年俸 一級 五千貳百圓  
二級 四千八百圓  
三級 四千五百圓

第九條 勅任文官親任式ヲ以テ敘任スル文官ヲ除クニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特

ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官親任式ヲ以テ敘任スル文官ヲ除クノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受

ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ勅任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸

ヲ給スルコトヲ得

第九條ノ二 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者

ハ特ニ高等官一等ニ陞叙スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ

在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

前官高等官一等ノ勅任文官ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テ

ハ特ニ高等官一等ニ陞叙スルコトヲ得

第十條 (前略)神宮皇學館教授○中ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り高等官

二等ニ陞叙スルコトヲ得○中

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等○中同第三號ニ依ルモノハ高等官五

等以下トス

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教授○前  
後略

第十六條 別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教諭○前  
後略

第二十條 高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官外交官ヲ除クニシテ三年以上各其ノ官ノ最

高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞叙スルコトヲ得○後

○大正十年勅令第四百七十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神宮皇學館職員官等俸給令ハ之ヲ廢止ス  
 神宮皇學館職員ニシテ従前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クルモノニ對シ支給スル俸給額ハ本令施行ノ際ニ限り  
 内務大臣ノ定ムル所ニ依ル  
 本令施行ノ際現ニ神宮皇學館助教又ハ書記タル者ハ文武判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ルノ間従前  
 ノ等級ヲ降ルコトナキモノトス

(第一表)

文武高等官官等表前略

勅 官等	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
		奏							
内務省	神宮皇學館長	同上	同上	同上	同上	同上			
		任							

(第二表)

奏任文官年俸表抄出

第一號	四、五〇〇	四、一〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇
俸給	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級			

(第四表) (抄出)

第三號	三、一〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇
神宮皇學館長 奏任タルモノ	四、五〇〇	四、一〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇						
	一級	二級	三級	四級	五級						

○文武判任官等級令(明治四十三年六月十八日勅令第二百六十七號)抄出

第一條 判任官ノ等級ハ一等乃至四等トシ其ノ區分ハ別表ニ依ルモノ、外其ノ本俸ニ依リ左ノ如ク定ム

特別俸	三級俸	六級俸	九級俸
	四級俸	七級俸	十級俸
一等	一級俸	八級俸	十一級俸
	二級俸	五級俸	十級俸
二等	五級俸	八級俸	十一級俸
二等俸	月俸九拾五圓以下八拾五圓以上	月俸八拾五圓未滿五拾五圓以上	月俸五拾五圓未滿

第二條 年功ニ依リ加給ヲ受クルモ爲ニ等級ヲ昇スコトナシ

附則 (略)

○判任官俸給令(明治四十三年三月二十八日勅令第三百三十五號)抄出

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第三章 法令 第二 職員官等俸給

第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増級スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特ニ貳百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸七拾五圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

(別表)

月額	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸
一六〇	一三五	一二五	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	

○教官及技術官ノ俸給ニ關スル件(大正九年八月十八日勅令第二百六十二號)(抄出)

第一條 教官ノ俸給ハ其ノ學科目ノ種類又ハ授業時間ノ多少ニ依リ(中略)其ノ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 教官ニシテ他ノ廳ノ教官ヲ兼ヌル者ノ俸給ハ之ヲ分割シテ各廳ヨリ給スルコトヲ得

第三條 教官ノ職務ヲ擔任スル講師又ハ囑託ニハ教官俸給豫算又ハ特ニ定メタル豫算ノ中ヨリ手當ヲ給

スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス○下略

### 第三 神宮皇學館長特別任用令

(大正二年九月五日勅令第二百七十八號)

神宮皇學館長特別任用令

神宮皇學館長ハ三年以上教育事務ニ従事スル高等文官又ハ奏任以上ノ教官ノ職ニ在リタル者ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 第四 恩給法施行令

(大正十二年八月十六日勅令第三百六十七號)(抄出)

第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

第三章 法令 第三 神宮皇學館長特別任用令 第四 恩給法施行令 二五

一 郡判任官

- 二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ
- 三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第五 神宮皇學館規程

(昭和二年三月一日  
内務省訓令第五號)

神宮皇學館規程

- 第一條 神宮皇學館ニ本科、研究科及普通科ヲ置ク
- 第二條 修業期間ハ本科四箇年、研究科一箇年、普通科四箇年トス
- 第三條 本科學生ノ定員ハ凡三百二十名トシ普通科生徒ノ定員ハ凡百名トス
- 第四條 本科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス
  - 一 中學校ヲ卒業シタル者
  - 二 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者
  - 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ中學校ノ卒業生ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者

ル者

四 神宮皇學館普通科ヲ卒業シタル者

第五條 研究科ニ入學セシムヘキ者ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス

第六條 普通科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス

第七條 本規程施行ノ爲必要ナル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ神宮大宮司之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六 官國幣社及神宮神部署神職任用令

(明治三十五年二月十日  
勅令第二十八號)(抄出)

第八條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セス神職高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

- 三 十年以上神職(府縣社以下神社神職ヲ除ク)ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神宮神部署ノ神部補若ハ主事補ノ職ニ在ル者
- 四 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者
- 五 神宮皇學館本科卒業ノ者
- 第九條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス神職尋常試験委員ノ銓衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得
- 三 前條第四號若ハ第五號ニ掲ケタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノ者

### 第七 府社縣社以下神社神職任用規則

(明治三十五年二月十八日) (抄出)  
內務省令第四號

- 第十一條 左ニ掲クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試験ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得
- 一 官國幣社及神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ掲クル者

### 第八 教員無試験檢定ニ關シ指定ノ件

〔明治三十三年文部省令第十號及明治三十六年同省令第二號〕教員檢定ニ關スル規程〔第五條第一項第一號〕ニ依リ明治三十六年三月一日以後行フ處ノ無試験檢定ニ關シ指定スルコト左ノ如シ

(明治三十六年一二月文部省告示第二一六號大正一一年七月同告示第四九一號)  
(昭和三年三月同告示第一三六號ヲ以テ本告示中改正)

學校	卒業 終了學科	檢定學科目
神宮皇學館	元本科	國語、漢文、歷史
同	本科第一部	修身、國語、漢文
同	本科第二部	修身、歷史

### 第九 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定

(大正八年七月八日)  
文部省告示第九十二號

明治四十年文部省告示第二百四十八號公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定ヲ左ノ通改正ス

第三章 法令 第八 教員無試験檢定ニ關シ指定ノ件 第九 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依ル指定 二九



明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

一、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル者左ノ如シ

神宮皇學館本科卒業者

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程(抄)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

三、文部大臣ノ指定シタル者

## 第十

高等試験令第七條及第八條ニ關スル件

第二條ニ依ル學校指定

(大正十三年五月二十二日  
文部省告示第二百九十號)

大正七年文部省令第三號第二條(第四號)ニ依リ左記ノ學校ヲ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定ス

一五、神宮皇學館

但シ本科卒業者ニ限ル

高等試験令第七條及第八條ニ關スル件(抄)

第二條 左ノ學校ハ高等試験令第八條ニ依リ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト認ム

二、文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校

高等試験令(抄)

第八條 高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者ハ豫備試験ヲ免ス(後略)

## 第十一 高等學校教員規程

(大正八年三月二十九日  
文部省令第十號)(抄出)

高等學校教員規程左ノ通り定ム

高等學校教員規程

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

四、專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

第三章 法令 第十二 高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ專門學校  
ニ準スヘキ學校指定

三二

### 第十二 高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ專門學校ニ準スヘキ學校指定

(大正一〇年九月一三日)  
文部省告示第四四九號)

大正八年文部省令第十號高等學校教員規程第九條第二項ニ依リ左記學校ヲ專門學校ニ準スヘキ學校ト指定ス

神宮皇學館

高等學校教員規程(抄)

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

九、五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一、前條第一項第一號、第二號及第九號ニ該當スル者

### 第十三 在學徵集延期者最高年齡

(昭和三年五月一六日)  
陸軍省告示第一二號)

兵役法施行令第百條第二號ニ該當スル學校ニシテ兵役法施行規則第三百十四條第一項ニ掲クル學校以外ノ學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡左ノ如シ

學校ノ區分

最高年齡

神宮皇學館普通科

年齡二十二年

神宮皇學館本科

年齡二十五年

## 第四章 本館諸規則

### 第一 神宮皇學館規則

(大正十五年二月一日)  
神宮司廳達第一號

(沿革) 明治四〇年三月一四日神宮司廳達第一號、四一年三月一四日同達第二號、四三年八月一六日同達第四號、大正元年一月二六日同達第一六號、二年四月一二日同達第六號、三年三月二八日同達第三號、四年三月二六日同達第五號、同年七月七日同達第一三號、六年七月三〇日同達第六號、八年三月二〇日同達第四號、九年三月三日同達第一號、一〇年三月一七日同達第三號、一一年六月七日同達第五號、一四年三月五日同達第二號、一五年二月一日同達第一號、昭和二年三月一九日同達第一號改正

#### 神宮皇學館規則

##### 第一章 總 則

第一條 本館ハ皇學ヲ教授シ併セテ其ノ研究ニ須要ナル學科ヲ修メシムル所トス

第二條 本館ニ本科、研究科及普通科ヲ置ク

本科、研究科ハ專ラ高等ノ學術ヲ授ケ普通科ハ普通神職ニ必要ナル學術ヲ授ケ

第三條 修業期間ハ本科四箇年、研究科一箇年、普通科四箇年トス

第四條 本科學生ノ定員ハ凡三百二十名トシ普通科生徒ノ定員ハ凡百名トス

第五條 本科ノ學科目ハ神道、修身、國語、漢文、歷史、哲學、法制、英語、體操トス

研究科ノ學科目ハ本科ニ置ク所ノ學科目トシ教授ノ指導ニヨリ所選ノ學科目ヲ履修セシム

普通科ノ學科目ハ神道、修身、國語、漢文、歷史、法制、有職、地理、哲學、英語、數學、理科、

簿記、圖書、體操トス

##### 第二章 學年、學期及休業

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 休業日ハ左ノ如シ

春季休業 四月一日ヨリ同月十日ニ至ル

#### 第四章 本館諸規則 第一 神宮皇學館規則

第四章 本館諸規則 第一 神宮皇學館規則

夏季休業 七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル(普通科ハ七月二十五日ヨリ八月三十一日ニ至ル)

冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル

神宮祈年祭 二月十七日

大祭祝日

本館創立記念日 四月三十日

日曜日

第三章 本科

第一節 學科程度及課程

第九條 本科第三學年並第四學年ヲ分チテ第一部及第二部トス

第十條 各學科ノ程度左ノ如シ

本科第一學年、第二學年

修身 實踐倫理、禮式

國語 講讀、作文作歌、文學史、國語學

漢文 講讀、作文

歷史 國史、東洋史、西洋史

哲學 心理學、論理學、哲學概論

法制 法學通論、經濟學通論、憲法、皇室典範

英語 講讀、作文

體操 教練、武道

本科第三學年、第四學年

第一部

神道 神道概論、神道史、神祇史、祝詞及同作文、古典解說、神社祭式

修身 國民道德論、倫理學、東洋倫理學史、西洋倫理學史

國語 講讀、作文作歌、文法、文學概論、言語學

漢文 講讀、作文、文法、漢文學史

哲學 宗教學、社會學、教育學、教授法

法制 古代法制、有職故實、神社法令

英語 講讀、作文

第四章 本館諸規則 第一 神宮皇學館規則

體操 教練

第二部

神道 神道概論、神道史、神祇史、祝詞及同作文、古典解說、神社祭式  
修身 國民道德論、倫理學、東洋倫理學史、西洋倫理學史

歷史 國史、東洋史、西洋史、考古學、古文書學、史學概論、史學研究法  
哲學 宗教學、社會學、教育學、教授法

法制 古代法制、有職故實、神社法令

英語 講讀、作文

體操 教練

第十一條 各學年ノ學科課程及每週授業時數ハ左表ニヨル

本科第一學年、第二學年

學科	學年	第一學年	第二學年	時數每週
修身	禮實	二	二	二
	踐倫	二	二	二
國語	講讀	四	四	四
	作文	四	四	四
漢文	講讀	四	四	四
	作文	四	四	四
歷史	西洋史	八	八	八
	東洋史	八	八	八
哲學	心理學	二	二	二
	倫理學	二	二	二
法制	經濟學	二	二	二
	通論	二	二	二
英語	講讀	六	六	六
	作文	六	六	六
體操	教練	四	四	四
	武道	四	四	四
計		三二	三二	三二

本科第三學年、第四學年

第一部

學科	學年	第三學年	第四學年	時數每週
神道	神道概論、神道史、神祇史、祝詞及同作文	六	六	六
	神道史、神祇史、祝詞及同作文	六	六	六
修身	國民道德論	四	四	四
	倫理學	四	四	四
國語	講讀	四	四	四
	作文	四	四	四
漢文	講讀	四	四	四
	作文	四	四	四
歷史	西洋史	八	八	八
	東洋史	八	八	八
哲學	心理學	二	二	二
	倫理學	二	二	二
法制	經濟學	二	二	二
	通論	二	二	二
英語	講讀	六	六	六
	作文	六	六	六
體操	教練	四	四	四
	武道	四	四	四
計		三二	三二	三二

計	體操	英語	法制	哲學	漢文	國語
	教	講	古	社宗	講	文講
	練	讀、	代	會教	讀、	法、
	文	作	法	學學	文、	文
	文	文	制	學學	文、	概
	練	文	學	學學	法	論
三三三	二	二	二	三	六	八
	教	講	神有	教教	漢講	文講
	文	讀、	社職	投育	文讀、	法、
	文	作	法故	學學	學作	言
	練	文	令實	法學	史文	語
	文	文	學	史文	學歌	作
三三三	二	二	二	三	八	八

第二部

學科	學年	第三學年	第四學年
神道	祝詞及同作文	神道概論、神道史、神祇史、	古典、神學、祭祀式
修身	國民道徳	東洋倫理學、西洋倫理學	西洋倫理學、西洋史
歷史	國史、東洋史、西洋史、考古學	國史、東洋史、西洋史、古文書	國史、東洋史、西洋史、古文書
哲學	社會學	社會學	社會學
計	三三三	三三三	三三三

計	體操	英語	法制
	教	講	古
	練	讀、	代
	文	作	法
	文	文	制
	練	文	學
三三三	二	二	二
	教	講	神有
	文	讀、	社職
	文	作	法故
	練	文	令實
	文	文	學
三三三	二	二	二

科外

雅樂(隨意科) 科外講義(臨時)

第二節 入學、退學及休學

第十二條 學生ノ募集ノ期日人員及試驗場等ハ官報、新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ廣告ス

第十三條 本科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ左記各號ノ一ニ該當シ本館ノ身體検査ニ合格シタル者ニ限ル

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ中學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者

四、本館普通科ヲ卒業シタル者

第十四條 入學志願者募集定員ニ超過シタル場合ニ於テハ選抜試験ヲ行フ

第十五條 入學志願者ハ入學願書(書式第一號)ニ左ノ書類及檢定料金五圓ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ差出スヘシ

一、戶籍抄本

二、卒業學校ノ學業成績點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書又ハ專門學校入學者試験檢定合格證

明書(書式第二號)

三、最近寫眞

第十六條 既納ノ檢定料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第十七條 入學志願者ハ第三學年並第四學年ニ於テ履修スヘキ第一部及第二部ニツキ其ノ志望順位ヲ入

學願書ニ記載スヘシ

第十八條 入學許可ヲ得タル者ハ四週日以内ニ其ノ父兄又ハ親族ヲ以テ身元保證人ト定メ在學證書(書式第三號)及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

但シ父兄親族アラサル者ハ公民權ヲ有シ相當資産アル者ヲ以テ保證人トナスコトヲ得

第十九條 保證人死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ事故ノ生シタル日ヨ

リ十日以内ニ在學證書(書式第三號)ニ準シ保證書ヲ調製シ之ヲ届出ツヘシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アル者ハ除名ス

一、正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺課シタル者

二、出席常ナラサル者

三、授業料ノ督促ヲ受ケ一箇月ヲ經ルモ猶ホ之ヲ納付セサル者

四、學年成績ニ於テ引續キ二回及第七セサル者

五、學年成績ニ於テ及第七セサル者ニシテ次學年始業後一週日以上無届缺課シタル者

六、體質虚弱又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

第二十一條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ退學セント欲スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以

テ願出ツヘシ但シ疾病ニ因ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第二十二條 學生ニシテ疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ三箇月以上修學ヲ中止セントスルトキハ館長

ノ許可ヲ得テ休學ヲ爲スコトヲ得

休學ハ兵役ニ服スル場合ヲ除キ一箇年以上ニ亘ルコトヲ得ス

休學期間内ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ願ニヨリ復學ヲ許スコトアルヘシ

第三節 進級及卒業

第二十三條 學生ノ進級及卒業ハ學業成績ニ依リ之ヲ定ム  
第二十四條 學業成績ヲ分チテ左ノ三種トス

一、學期成績

二、學年成績

三、卒業成績

第二十五條 學期成績ハ第一學期、第二學期ノ各終ニ於テ學期試験ヲ行ヒ平素ノ成績ヲ參按シ之ヲ定ム  
第二十六條 學年成績ハ每學年ノ終ニ於テ學年試験ヲ行ヒ其ノ成績ト學期成績トヲ平均シテ之ヲ定ム  
第二十七條 試験ハ學科ノ性質ニ依リ之ヲ省キ若ハ臨時ニ行フコトアルヘシ  
第二十八條 各學課目ノ成績ハ一百點ヲ以テ滿點トス  
第二十九條 學年成績ニ於テ各學課目ノ成績六十點以上ヲ及第トス但シ全學課目成績平均六十點以上ニシテ六十點未滿五十點以上ノ成績ヲ有スル學課目三以內ナルトキハ及第セシムルコトアルヘシ  
第三十條 卒業成績ハ各學課目ニ就キ各學年ノ學業成績ヲ合セ其ノ學年ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス  
第三十一條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲メ試験ニ缺席シタル者又ハ兵役ニ服スル爲メ試験ヲ受ク

ルコト能ハサル者ハ詮議ノ上特別試験ヲ行フコトアルヘシ

第三十二條 本館所定ノ學科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四節 特待生及館費生

第三十三條 學生中身體強壯品行方正學術優等ニシテ他ノ模範タルヘキ者アルトキハ選ヒテ特待生トス

第三十四條 特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十五條 卒業生ニシテ他ノ高等ノ學校ニ入りタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ館費生ニ採用スルコトアル

ヘシ

第三十六條 館費生ニハ其ノ學校所定ノ修學期間中毎月金參拾圓以內ノ學資ヲ給與ス但シ病氣又ハ事故ニ依リ休學久シキニ亘ルトキハ一時給費ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十七條 館費生ニ選定セラレタル者ハ保證人ヲ定メ誓約書(書式)ヲ差出スヘシ

第十八條第十九條ノ規定ハ前項ノ保證人ニ關シ之ヲ準用ス

第三十八條 館費生病氣又ハ事故ノ爲メ休學シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ直ニ館長ニ届出ツヘシ

第三十九條 館費生ハ本館ノ許可ヲ得スシテ報酬ヲ受クル職務ニ就クヲ得ス

第四十條 館費生ハ其ノ學年ノ終リ毎ニ修業ノ狀況ヲ報告スヘシ



第四十一條 特待生ニシテ其ノ名譽ニ反スル行爲アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘシ  
 館費生半途廢學シ若ハ學業不進又ハ品行不良ナルトキハ館費生ヲ免シ從來支給シタル學資ヲ即時ニ償還セシム但シ情狀ニ依リ詮議ノ上其ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第五節 授業料

第四十二條 授業料ハ一學年金六拾圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下ク

第一學期 金貳拾五圓也 納付期日 四月十三日ヨリ 同月十五日マデ

第二學期 金貳拾圓也 納付期日 九月三日ヨリ 同月五日マデ

第三學期 金拾五圓也 納付期日 一月十三日ヨリ 同月十五日マデ

第四十三條 休學中ハ授業料ヲ徵收セス

復學ヲ許サレタル者ノ授業料ハ月割ヲ以テ其ノ月ヨリ納付セシム

第四十四條 特待生ヲ解除シタルトキハ授業料ハ次學期ヨリ之ヲ納付セシム

第四十五條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第四章 研究科

第四十六條 研究科學生ハ本館本科卒業生及之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニシテ入學ヲ志望スル者ニツキ館長之ヲ許可スルモノトス

第四十七條 研究科ニ入學セントスル者ハ書式第一號ニ準シ入學願書ヲ差出スヘシ但シ本科卒業生以外ノ入學志望者ニ在リテハ第十五條ヲ適用ス

第四十八條 研究科學生ニシテ所選ノ學科ヲ履修シタルトキハ研究論文ヲ提出セシメ成績考査ノ上修業證明書ヲ授與スルモノトス

第四十九條 第十六條、第十八條、第十九條、第二十條第一號、第三號及第六號、第二十一條、第四十二條及第四十五條ハ研究科學生ニ之ヲ適用ス

第五章 普通科

第一節 學科課程

第五十條 各學年ノ學科課程及每週授業時數ハ左表ニヨル

學科課程表

學科	學年		時數	時數	時數	時數
	第一學年	第二學年				
神道						
神道						
神道						
神道						

修身	禮式ノ要旨	三	國民道德ノ要旨、禮式	一	國民道德史	一	國民道德史
國語	講讀、文法、作文、習字	六	講讀、文法、作文、習字	四	講讀、作文、作歌	四	講讀、作文、作歌
漢文	講讀	三	講讀	三	講讀	三	講讀
歷史	東洋史	四	西洋史	四	國史	二	國史
法制	經濟制大意	二	古代法制	二	皇室典範	二	神社法令
有職			有職概說	一	皇室令附式	一	典禮故實
地理	外國地理	一	地理概說	一	宗教大意	一	
哲學							
英語	發音、綴字、譯解、習字	四	譯解、作文	三	譯解、文法	三	
數學	代算、幾何、算術	三	幾代何數	三	幾代何數	三	
理科	生理、衛生	二	博物通論	二	物理、化學	二	物理、化學
簿記					官廳簿記	一	
圖畫	自在畫	一	自在畫				
體操	武體操、教練	三	武體操、教練	三	武體操、教練	三	武體操、教練
計							

第五十一條 前條ニ定ムル所ノ學科課程ノ外四學年間ニ課スヘキ實習ノ要目左ノ如シ但シ實習ハ休業期間ニ於テ之ヲ課スルコトアルヘシ

- 普通禮式 神宮祭式 神社祭式 雜祭式 殿内裝飾 祭場辨備
- 神饌調理 祭具調製 裝束衣紋 雅樂 社務實習

第五十二條 前二條ノ外必要ニ應シ科外トシテ講義又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

第二節 入學、退學及休學

第五十三條 普通科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備シ神宮大宮司、地方長官若ハ道府縣神職會長ヨリ薦舉セラレシ者タルヲ要ス

- 一、資性善良品行方正ニシテ身體健全ナル者
- 二、卒業後神職タラントスル志操堅固ナル者

第五十四條 生徒ノ募集ニツキテハ館長ニ於テ毎年薦舉ニ關スル要件ヲ定メ神宮大宮司ニ報告スルト共ニ之ヲ各地方長官及各道府縣神職會長ニ通知スルモノトス

第五十五條 薦舉生ノ數募集定員ニ超過シタル場合ニ於テハ館長ハ薦舉生ノ學業成績書、身體檢查書及履歷書ヲ參按シ入學セシムヘキ者ヲ選拔ス

第五十六條 入學許可ヲ得タル者ハ四週日以内ニ身元保證人二名ヲ定メ誓約書(書式第五號)及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

保證人ノ中一名ハ本人ノ父兄又ハ親族ニシテ公民權ヲ有スル者其ノ他ノ一名ハ丁年以上ノ男子ニシテ所得稅ヲ納ムル者タルヘシ

第五十七條 保證人死亡シタルトキ又ハ其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ事故ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ保證人連署ノ届書ヲ差出スヘシ

新規保證人ハ前條誓約書ニ準シ身元證明書ノ添付ヲ要ス

第五十八條 第二十條第一號、第二號及第四號乃至第六號、第二十一條及第二十二條ハ普通科生徒ニ之ヲ適用ス

第三節 進級及卒業

第五十九條 生徒ノ進級又ハ卒業ニ付テハ各學年末ニ於テ其ノ學年ノ學業成績及勤惰操行ヲ考査シテ之ヲ定ム

第六十條 前條ノ考査ニ合格セサル者ハ次學年ノ始ヨリ原級ノ全課程ヲ再修セシム

第六十一條 本館所定ノ學科及實習ヲ履修シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四節 學 資 補 給

第六十二條 生徒ニハ在學中學資ノ補給ヲナス

學資ノ補給ハ月額拾圓以内トス

第六十三條 生徒休學シタルトキ若ハ停學ニ處セラレタルトキハ其ノ期間學資ノ補給ヲ停止ス

第六十四條 第二十號ニヨリ除名セラレタル者、第六十七條ニヨリ放校ニ處セラレタル者、若ハ自己ノ便宜ニヨリ退學シタル者ニ對シテハ其ノ在學中支給シタル學資ヲ即時ニ償還セシム但シ情狀ニ依リ詮議ノ上其ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第六章 賞 罰

第六十五條 學生生徒ニシテ本館ノ命シタル勤務ニ就キ克ク其ノ責ヲ果シタル者若ハ學術操行ニ關シ特ニ推獎スヘキ者ニハ賞品ヲ授與スルコトアルヘシ

第六十六條 學生生徒ニシテ卒業ノ際成績優等品行方正ナル者ニハ恩賜獎學費ヲ以テ賞品ヲ授與スルコトアルヘシ

第六十七條 學則其ノ他命令規則ニ背戾シ又ハ本館ノ學生生徒タル體面ヲ汚シタル者ハ之ヲ懲罰ス懲罰ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一、譴責
- 二、停學
- 三、放校

第七章 寄宿寮及學寮

第六十八條 本館ニ寄宿寮及學寮ヲ置ク

寄宿寮ニハ本科學生ヲ寄宿セシム

學寮ニハ普通科生徒ヲ寄宿セシム

第六十九條 本科學生ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ外外宿スルコトヲ許サス

- 一、本館ヲ離ル、一里半以内ニ居住スル父兄ノ家ニ在ル者ニシテ父兄ノ出願ニヨリ期限ヲ定メ外宿ヲ許シタル者
- 二、疾病其ノ他本館ノ都合ニ依リ臨時外宿ヲ命シタル者

三、旅行、歸省其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ所要ノ日數ヲ限り外宿ヲ許シタル者

第七十條 普通科生徒ハ前條第二號及第三號ニ該當スル者ノ外外宿スルコトヲ許サス

第七十一條 本科寄宿生ハ舍費トシテ毎月(八月ヲ除ク)金壹圓ヲ其ノ月十五日マテニ納付スヘシ但シ第六十九條各號ノ外宿ニシテ全一箇月ニ亘ルモノアルトキハ其ノ月ニ限り之ヲ徵收セス

第八章 補則

第七十二條 本則ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ神宮大宮司ノ認可ヲ得テ館長之ヲ定ム

附則

本則ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年二月一日神宮司廳達第一號神宮皇學館規則改正ノ際從前ノ規則ニヨリ入學シ現ニ在學セル學生ニ對シテハ仍從前ノ規則ニ依ルモノトス

(書式第一號)

入學願書 (用紙美濃紙)

私儀御館本科第一學年(研究科)へ入學仕度候ニ付御許可相



神宮皇學館長 氏 名 殿

學業成績表

學級	科目	修身					平均	席次	操行
		何	何	何	何	何			
第一學年							何人中 第何番		
第二學年									
第三學年									
第四學年									
第五學年									

備考 專門學校入學者試験檢定ノ合格者ニ在リテハ試験科目及其評點竝ニ合格者總人員中ノ席次ヲ掲クルモノトス

(書式第三號)

參錢收  
入印紙

在學證書 (用紙美濃紙通)

私儀今般御館本科(研究科)ニ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ専心ニ勉勵可致ハ勿論卒業ニ至ル迄濫ニ轉學退學等致間敷候仍テ證書如此ニ候也

本籍地  
族籍、戸主又ハ戸主トノ續柄  
氏 名 印  
年 月 日 生

右何某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論退學後タリトモ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候此段保證仕候也

本籍地  
現住所  
何某父兄伯叔父又ハ縁故者等  
族籍、職業  
保證人 氏 名 印  
年 月 日 生

神宮皇學館長 氏 名 殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御届可申候也

前書保證人何某ハ當<sub>市町</sub>村<sub>内</sub>ニ居住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年 月 日 何市町村長 何 某印

(書式第四號)

參錢收 入印紙

誓 約 書 (用紙美濃紙 通)

私儀今般御館館費生ニ御選抜被下候ニ就テハ館費生ニ關スル規則ヲ遵奉可致ハ勿論成業後滿一箇年  
以內ニ於テ御命令有之候節ハ學資ノ給與ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内御館御指定ノ職務ニ從事可  
仕此段誓約仕候也

本籍地 現住所 卒業生 氏 名 印

右何某今般御館館費生ニ御選抜被下候ニ就テハ右誓約書ノ通本人ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘキ  
ハ勿論萬一半途廢學若ハ其ノ他事故ノ爲學資償還ヲ命セラレ本人ニ於テ其ノ義務相怠リ候節ハ拙者  
ニ於テ必辨償可仕此段保證仕候也

年 月 日 本籍地 現住所 保證人 氏 名 印

神宮皇學館長 氏 名 殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御届可申候也

前書保證人何某ハ當<sub>市町</sub>村<sub>内</sub>ニ居住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也 何市町村長 何 某印

(書式第五號)

參錢收 入印紙

誓 約 書 (用紙美濃紙 通)

私儀今般御館普通科ニ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ專心ニ勉勵可致ハ勿論卒業ニ至

第四章 本館諸規則 第一 神宮皇學館規則

六〇

ル迄濫ニ轉學退學等致間敷萬一半途退學若ハ其ノ他事故ノ爲學資償還ヲ命セラレ候節ハ直チニ返納可致此段誓約仕候也

本籍地

族籍、戸主又ハ戸主トノ續柄

氏

名印

年月日生

前書之通相違無之仍テ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共ニ於テ引受可申此段保證仕候也

年月日

本籍地

現住所

何某父兄伯叔父又ハ縁故者等

族籍、職業

保證人 氏

名印

年月日生

本籍地

現住所

族籍、職業

保證人 氏

名印

年月日生

神宮皇學館長 氏 名殿

追テ保證人向後轉住改印等ノ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ速カニ御届可申候也

前書保證人何某ハ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

年月日

何市町村長 何

某印

前書保證人何某ハ丁年以上ノ男子ニシテ所得稅ヲ納ムル者ニ相違無之候也

年月日

何市町村長 何

某印

第二 評議委員會規程

(大正二年八月一日大宮司稟申  
同年九月一五日内務省秘第一、三二四號認可)

神宮皇學館評議委員會規程

第一條 神宮皇學館官制第八條ニ依リ神宮皇學館ニ評議委員會ヲ置ク

第四章 本館諸規則 第二 評議委員會規程



第四章 本館諸規則

第二 評議委員會規程  
事及生徒監設置ノ件

第三 神宮皇學館普通科主

六二

第二條 評議委員ハ教育上經驗ヲ有スル者及内務省高等官ノ内ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 評議委員會ハ學科課程其ノ他館長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議シ又ハ内務大臣ノ諮問ニ答申スルモノトス

第四條 評議委員會ノ會議ハ館長之ヲ開キ其ノ議案ヲ提出スヘシ但シ評議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第五條 評議委員會ノ決議ハ館長ヨリ神宮大宮司ヲ經テ内務大臣ニ報告スルモノトス

第三 神宮皇學館普通科主事及

生徒監設置ノ件

(昭和二年三月三十一日)  
神宮司廳達第三號

第一條 神宮皇學館ニ普通科主事一人生徒監若干人ヲ置ク

第二條 普通科主事及生徒監ハ神宮皇學館教諭ノ中ヨリ館長之ヲ命シ神宮大宮司ニ報告スヘシ

第三條 普通科主事ハ館長ノ命ヲ承ケ生徒ノ教育ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條 生徒監ハ普通科主事ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ニ從事ス

附 則

本達ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四 神宮皇學館館旗取扱規程

(昭和四年五月一三日)  
神宮皇學館庶第六七號

第一條 館旗ニ對シテハ職員學生々徒敬禮ヲ行フモノトス

第二條 館旗ヲ掲クル場合左ノ如シ

一、部隊ヲ編成シ公式送迎ヲナストキ

二、拜賀式、入學式、卒業式及創立記念式ノトキ

三、本館ヲ代表シテ部隊ヲ編成スルトキ

四、其他館長ニ於テ必要ト認ムルトキ

第三條 館旗ヲ捧持セシムルタメ旗手一名副旗手二名ヲ置キ館長之ヲ命ス

第四條 必要アル場合ハ護衛手五名ヲ置キ館長之ヲ命ス

第四章 本館諸規則 第四 神宮皇學館館旗取扱規程

第五條 館旗ヲ掲クル場合ハ旗手ニ對シ館長之ヲ收授ス

附 則

本館創立記念日ニハ館旗ニ對シ分列式ヲ行フ

## 第五 神宮皇學館處務規程

(大正二年一〇月一六日)  
(神宮司廳訓令第一七號)

(沿革) 大正二年一月二日神宮司廳訓令第一八號、三年一月二九日同第一號、同年一〇月三〇日同第一二號、四

年八月三〇日同第一一號、五年三月二五日同第二號、一〇年一月二〇日同第六號、一二年四月二五日同

第四號改正

神宮皇學館處務規程左ノ通改正ス

神宮皇學館處務規程

第一條 神宮皇學館長ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ掲クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得

一 部下職員ノ出張

二 部下職員ノ看護歸省、墓參、轉地療養若ハ忌引賜暇中ノ旅行

三 部下職員ノ除服出仕

四 部下職員ノ受験願

五 月俸五拾圓以内ノ雇員、年額千八百圓以内ノ講師及年額千貳百圓以内ノ囑託員ノ採用解免

六 雇員一時金給與

七 神宮皇學館及附屬土地建物ノ管理

八 物品會計規則第十六條第二項但書ニ於ケル吏員ノ命令

第二條 第一條第三號第五號及第六號ニ付テハ專決ノ都度氏名其ノ他ノ要件ヲ神宮大宮司ニ報告スヘシ

第三條 神宮皇學館長ハ經伺ノ上左ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一 館務分掌規程

二 館員服務心得

三 貸費生及館費生ノ義務ニ關スル細則

第四條 第一條及第三條各號ノ事項ニシテ制規定例トナルヘキモノヲ設定シ若ハ改廢シタルトキハ其ノ

都度全文ヲ掲ケ神宮大宮司ニ報告スヘシ但シ神宮公報ニ登載スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 神宮皇學館長ハ前學年中施行シタル學事及事務ノ狀況ヲ毎年四月末日迄ニ神宮大宮司ニ報告ス

ヘシ

附 則

本令ハ大正十一年十二月十七日ヨリ之ヲ適用ス

第六 神宮皇學館館務分掌規程

(大正二年四月二十四日)  
神宮司廳訓令第五號

(沿革) 大正一五年七月一三日神宮皇學館訓令第一號

神宮皇學館館務分掌規程左ノ通改正ス

神宮皇學館館務分掌規程

第一條 神宮皇學館ニ教務部、學生監部、圖書部及庶務部ヲ置ク

第二條 各部ニ部長一名部員若干名ヲ置ク

第三條 部長ハ館長ノ命ヲ承ケ各主管ノ事務ヲ掌理ス

部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ分擔ノ事務ニ從フ

第四條 前條ノ部長及部員ハ館長之ヲ命ス

第五條 教務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 授業及教課ニ關スル事項

二 試験及成績ニ關スル事項

三 教授會ニ關スル事項

四 野外演習、遠足、修學旅行及研究旅行ニ關スル事項

五 教室教具及講堂ノ整理ニ關スル事項

六 研究室及歴史參照室ニ關スル事項

七 卒業生ニ關スル事項

八 學生ノ募集ニ關スル事項

九 主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項

一〇 其他教務ニ關スル一切ノ事項

第六條 學生監部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學生風紀ノ監督指導ニ關スル事項

二 學生ノ勤惰及賞罰ニ關スル事項

- 三 學生ノ衛生及身體検査ニ關スル事項
  - 四 學生ノ願届書ニ關スル事項
  - 五 學籍及兵役ニ關スル事項
  - 六 學生ノ休學及退學ニ關スル事項
  - 七 學生ノ汽車汽船運賃割引證ニ關スル事項
  - 八 學生ノ集會及揭示ニ關スル事項
  - 九 學生控所及集會所ノ整理ニ關スル事項
  - 一〇 學寮ノ當直ニ關スル事項
  - 一一 寮費ニ關スル事項
  - 一二 炊事ニ關スル事項
  - 一三 主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
  - 一四 其他學生ノ取締ニ關スル一切ノ事項
- 第七條 圖書部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 圖書印章ノ管守ニ關スル事項

- 二 圖書ノ購入修理ノ計畫ニ關スル事項
  - 三 圖書ノ保存及整理ニ關スル事項
  - 四 圖書ノ受入ニ關スル事項
  - 五 圖書ノ目錄編纂ニ關スル事項
  - 六 圖書ノ閲覽及貸付ニ關スル事項
  - 七 主管ニ屬スル文書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
  - 八 其他圖書ニ關スル一切ノ事項
- 第八條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 御眞影詔勅及令旨ノ保管ニ關スル事項
  - 二 館長印及館印ノ管守ニ關スル事項
  - 三 機密文書ニ關スル事項
  - 四 儀式ニ關スル事項
  - 五 職員ノ服務ニ關スル事項
  - 六 職員會議ニ關スル事項

- 七 當直ニ關スル事項
- 八 令達告示及諸規則ノ立案審査ニ關スル事項
- 九 成案文書官報公報及新聞紙ノ査閱整理ニ關スル事項
- 一〇 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
- 一一 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 一二 本館一覽統計報告及揭示公告ニ關スル事項
- 一三 來館者ノ接遇ニ關スル事項
- 一四 土地建物ノ管理ニ關スル事項
- 一五 館中ノ取締及營繕ニ關スル事項
- 一六 衛生及洒掃ニ關スル事項
- 一七 傭人ニ關スル事項
- 一八 歲入歲出豫算及決算ニ關スル事項
- 一九 金錢ノ收支ニ關スル事項
- 二〇 物品ノ出納保管及處分ニ關スル事項

二一 通信運搬ニ關スル事項

二二 其他各部ノ主管ニ屬セサル一切ノ事項

第九條 各部ノ主管事項ニシテ他部ニ關聯スルモノハ合議スルモノトス

(沿革) 大正一五年七月一六日神宮皇學館訓令第二號

神宮文庫事務取扱ニ關スル件左ノ通り相定ム

神宮文庫事務取扱ニ關スル件

神宮文庫ノ事務ハ神宮皇學館圖書部長及庶務部長ヲシテ掌理セシム

前項ニヨル各部長ノ分掌事項及其取扱方ニ付テハ神宮皇學館館務分掌規程ヲ準用ス

## 第七 神宮皇學館當直規程

(明治三七年六月二二日)  
神宮皇學館達第二號

(沿革) 明治四三年五月二日館達第二號改正

神宮皇學館當直規程左ノ通改正ス

第四章 本館諸規則 第七 神宮皇學館當直規程

神宮皇學館當直規程

- 第一條 當直ハ一名トシ判任官及雇ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 當直割當ハ庶務部ニ於テ豫メ一ヶ月毎ニ番表ヲ製シ各員ノ認印ヲ徴ス
- 第三條 當直ノ勤務ハ休館日又ハ平日退館時限ヨリ翌日登館時限迄トス
- 第四條 休館日ノ當直交代ハ平日ノ登館時限ニ依ル
- 第五條 當直割當ノ後公務若クハ疾病、忌引等ノ事故ヲ生シタル時ハ臨時當番ヲ割當補充ス
- 第六條 當直ヲ交代シタル時ハ庶務部ニ通告スルヲ要ス
- 第七條 休館日當直ノ者ハ公務ノ繁閑ニ依リ翌日休暇スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ庶務部へ通告スヘシ
- 第八條 當直員ハ各部所管ノ鍵函ヲ管守スヘシ
- 第九條 當直員ハ左ノ簿冊ヲ管理シ勤務終了ノ際庶務部又ハ次番ニ引繼クヘシ
  - 一 當直日誌
  - 一 當直規程
  - 一 當直番表

一 郵便受付簿

一 發送簿

一 證印簿

一 郵便電信規則

- 第十條 當直員ハ臨時郵便電信發送用トシテ庶務部ヨリ郵便切手ヲ領置スヘシ
- 第十一條 當直日誌ニハ月日官氏名及當日取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載スヘシ
- 發送簿ニハ發送文書ノ種類宛名及郵稅額等ヲ詳記スヘシ
- 證印簿ニハ職員宛學生宛文書ノ種類又ハ物件ノ員數ヲ記載シ職員宛ノモノハ職員各自ニ學生宛ノモノハ學生監ニ送付シ各受領印ヲ徴スヘシ
- 第十二條 館長宛親展書其他職員宛ノ電報又ハ親展封書ニシテ至急ノ表示アルモノハ遲滯ナク送達スヘシ
- 第十三條 至急ヲ要スル事アル時ハ臨機適應ノ處分ヲナシ又ハ主務部員ノ登館ヲ求ムヘシ
- 第十四條 各員退館後ハ各室ヲ巡視シ文書ノ散逸等アルトキハ之ヲ檢收シ特ニ火ノ元戸締ニ注意スヘシ
- 第十五條 非常ノ節ハ御眞影ヲ安全ノ地ニ奉移シ館長ニ急報シ門戸ノ開閉點燈ノ配置文書其他重要品ノ

搬出保護等臨機ノ處置ヲナスヘシ

### 第八 神宮皇學館職員服務心得

(大正二年一二月二七日)  
神宮皇學館訓令第四號

(沿革) 大正六年一月二五日館訓令第一號改正

神宮皇學館職員服務心得左ノ通改正ス

神宮皇學館職員服務心得

第一條 新ニ任命セラレタル者ハ直ニ現住所ヲ館長ニ届出テ且五日以内ニ履歷書ヲ差出スヘシ

但シ履歷ニ關スル異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ館長ニ届出ツヘシ

第二條 職員出勤スレハ先ツ勤仕簿ニ捺印スヘシ

第三條 疾病又ハ事故ノ爲メ出勤時限ヨリ一時間以上ヲ過キ出勤シタルトキハ其事由ヲ館長(館長不在ノトキハ主務)

上席ニ陳述スヘシ

第四條 執務中疾病又ハ事故ノ爲メ退出セントスルトキハ其ノ事由ヲ館長(館長不在ノトキハ主務上席者)ニ申出承諾

ヲ受クヘシ

第五條 執務時間外若ハ休暇日ニ服務スルトキハ其ノ事由ヲ當直員ニ通告スヘシ

第六條 疾病又ハ事故ノ爲メ出勤スルコト能ハサルトキハ其ノ病狀又ハ事故ノ要領ヲ記載シ當日ハ午前

中(受持授業アル者ハ其ノ授業時限前)館長ニ届出ツヘシ

病氣缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ爾後届出ノ都度亦同シ但シ休暇日ノ前後共缺

勤ノトキハ其ノ休暇日ハ之ヲ缺勤日數ニ通算ス

第七條 證人又ハ鑑定人トシテ裁判所ニ召喚ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判所、事件及期日ヲ記載シ大宮司

ノ認可ヲ請フヘシ同事件ニ付キ引續キ出頭ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ都度大宮司ニ届出ツヘシ

第八條 父母ノ祭日ニハ其ノ旨館長ニ届出ツヘシ

第九條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族ノ續柄及忌服日數ヲ記載シ館長ニ届出ツヘシ

第十條 病氣看護、墓參、轉地療養ノ爲又ハ忌引、賜暇中旅行セントスルトキハ其ノ事由、旅行ノ期日

及旅行先ヲ記載シ轉地療養ニハ醫師ノ診斷書、看護ニハ其ノ事實ヲ認ムヘキ書類ヲ添ヘテ館長ノ許可

ヲ請フヘシ

旅行許可期間内ニ歸省シ難キ場合ニ於テハ前項ニ準據シ許可ヲ得タル期限内ニ延期ノ追願ヲ爲スヘシ

但シ天災等ノ爲期限内追願ノ手續ヲ爲ス能ハサル場合ハ官公署ノ證明書ヲ添ヘ歸着後之ヲ爲スコトヲ

得

第十一條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發届ハ發程前ニ、歸館届ヲ歸着ノ翌日迄ニ館長ニ差出スヘシ但至急ノ場合ニ於テハ歸館ノ上發着ヲ届出ツルモ妨ケナシ

第十二條 出張シタル者ハ歸館ノ日ヨリ三日以内ニ復命書ヲ館長ニ差出スヘシ但シ輕易ノ事件ニ付テハ口頭ヲ以テ復命スルモ妨ケナシ

第十三條 徴兵検査又ハ召集、簡閱點呼ノ令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ寫ヲ添へ出發及歸着ノ月日地名ヲ記載シ速ニ館長ニ届出ツヘシ

第十四條 退館ノ節ハ簿書類ヲ取纏メ散逸セサル様注意スヘシ但シ重要ノ物件ハ特ニ當直員ニ保管ヲ託スヘシ

第十五條 神宮所管ノ建設物又ハ其ノ附近ニ災害若ハ不慮ノ事變アルトキハ速ニ駈付警戒及防禦ニ従事スヘシ

### 第九 學業成績考查内規

(昭和二年六月四日)  
神宮皇學館教第五〇號

(沿革) 昭和五年二月一八日館庶第一四號改正

第一條 學生ノ學業成績ハ本館規則ニ據ルノ外本細則ニ準據シテ考查スルモノトス

第二條 各學科ノ學業成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表ス

第三條 各學科ノ評點單位數ヲ定ムルコト左ノ如シ

學部	學科		修身	國語	漢文	歷史	哲學	法制
	第一學年	第二學年						
第一部	第一學年	第二學年	一	三	二	三	一	一
	第三學年	第四學年	二	五	三	一	一	一
	第三學年	第四學年	二	五	四	一	一	一
	第三學年	第四學年	三	二	二	一	一	一
第二部	第三學年	第四學年	二	二	七	一	一	一
	第三學年	第四學年	二	二	八	一	一	一



英語	體操	合計
二	二	一五
二	二	一六
一	一	一七
一	一	一七
一	一	一六
一	一	一六

第四條 評點ヲ分チテ學期評點學年評點及卒業評點ノ三種トシ各學課目ノ評點單位ハ一百點ヲ以テ滿點トス

評點一單位ヲ以テ一學課目トナス

第五條 學期評點ハ各學課目ニツキ學期試驗ノ成績ト平素ノ成績及勤惰トヲ參按シテ之ヲ定ム

第六條 學年評點ハ各學課目ニツキ第一學期第二學期ノ評點平均數ニ學年試驗ノ得點ヲ加ヘ二除シテ之ヲ定ム

第七條 卒業評點ハ各學課目ニツキ各學年評點ノ總和ヲ其ノ學年ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス

第八條 試驗ヲ分チテ學期試驗及學年試驗トス學期試驗ハ第一學期第二學期ノ終ニ於テ行ヒ學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ但シ學科ノ性質ニヨリ別ニ臨時試驗ヲ行ヒ又試驗ニ依ラス平素ノ成績勤惰及研究調査ノ結果等ニヨリ學期評點若クハ學年評點ヲ定ムルコトアルヘシ

第九條 缺課缺席夥多ナル者ニハ學期若クハ學年試驗ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

第十條 試驗ニ缺席セントスル者ハ疾病ニ因ルモノニアリテハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ已ムヲ得サル事故ニ因ルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ事前ニ届出ツヘシ

學年試驗ニ缺席シ特別試驗ヲ受ケントスル者ハ同時ニ出願ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 一學年間ニ同一學課目ニツキ二回學期試驗ニ缺席シタル者ハ特別ノ詮議ニヨル外進級又ハ卒業セシメサルモノトス

第十二條 本館規則第三十一條ノ特別試驗ハ學年試驗ニ缺席シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

一、本人或ハ父母ノ疾病ノ爲メ缺課シタルトキ

二、父母祖父母兄弟姉妹妻子死亡ノ爲メ學生生徒喪假規程ニ依リ缺課シタルトキ

三、軍隊又ハ官衙ヨリ召集召喚セラレタルトキ

四、兵役ニ服スル爲メ休學シタルトキ

第十三條 前條ノ場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ試驗ヲ行ハス

一、學年間ノ缺課時數其ノ學年ノ授業時數ニ比シ二分ノ一ヲ超ユルトキ

- 二、學期試験ノ成績劣等ナルトキ
- 三、學年試験ニ缺席ノ際出願手續ヲ怠リタルトキ
- 四、特別試験ノ定日ニ再ヒ缺席シタルトキ

第十四條 特別試験ハ次學年始業後直チニ之ヲ行フ但第四學年生ニ對シテハ特別ノ詮議ヲナスコトアルヘシ

第十五條 特別試験ノ評點ハ第三學期ニ於ケル平素ノ成績勤惰及缺席ノ事由ヲ參按シ其ノ得點ノ百分ノ八十以內ニ於テ之ヲ定ム

但シ第十二條第三號及第四號ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十六條 學期試験ニ缺席シタル者ノ評點ハ第十二條各號ニ該當スル場合ニ限り當該學期ニ於ケル平素ノ成績勤惰及缺席ノ事由ヲ參按シテ他ノ學期評點ノ百分ノ七十以內ニ於テ認定點ヲ附スルモノトス但シ第十二條第三號及第四號ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十七條 本館規則第二十九條ノ合格標準ニ達セサル者ト雖モ左記ニ該當スル場合ニ限り特ニ教授會ノ詮議ヲ經テ成績不良ノ學課目ニツキ再試験ヲ行フコトアルヘシ

- 一、學年評點平均七十點以上ヲ得タルトキ

二、五十點未滿ノモノニ學課目ヲ超エサルトキ

三、四十點未滿ノ學課目ナキトキ

第十八條 前條再試験ハ次學年始業後直チニ之ヲ行フ再試験ニ合格セル者ハ進級セシメ不合格ノ者ハ原級ニ止ム

卒業ノ場合ニ於テモ前條竝ニ本條ヲ適用ス但再試験ノ期日ニツキテハ特別ノ詮議ヲナスコトアルヘシ

## 第十 神宮皇學館學生生徒服制

(明治三八年七月二十八日  
神宮司廳訓令乙第四號)

(沿革) 明治四二年二月一二日神宮司廳訓令乙第二號、大正四年八月三〇日同訓令第一〇號、同五年三月二三日同

第四號、同八年三月二日同第一號、昭和二年五月三〇日同第六號、同三年三月三十一日同第三號改

正

神宮皇學館學生生徒服制左ノ通改正ス

神宮皇學館學生生徒服制

第二條 神宮皇學館學生生徒ノ服制ハ別表竝ニ圖式ニ依ル

第四章 本館諸規則 第十 神宮皇學館學生生徒服制

第二條 服制ハ夏冬ノ二種トシ着用期間ハ夏服ハ六月一日ヨリ九月三十日冬服ハ十月一日ヨリ五月三十一日迄トス

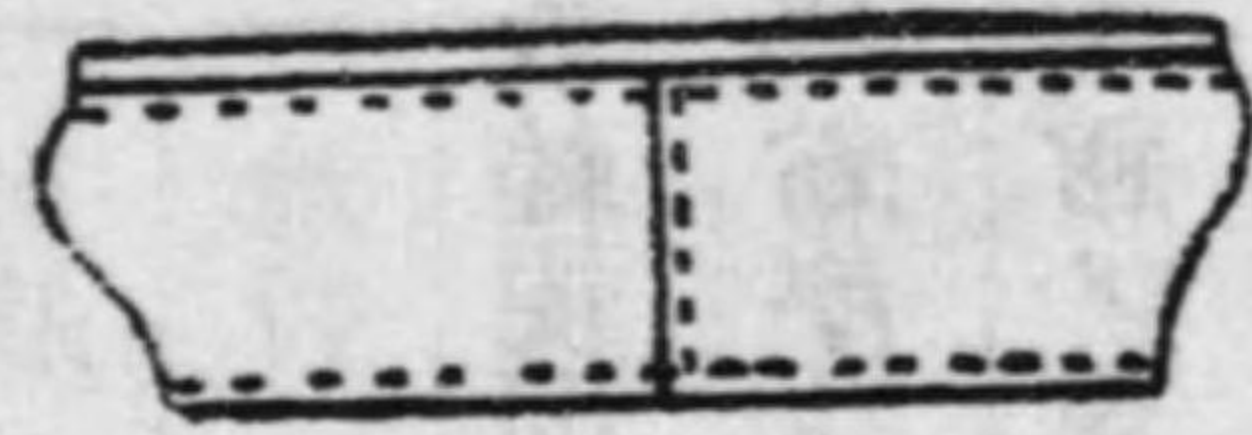
第三條 夏期着用期間ハ學生ニ限り儀式教練ノ場合ノ外ハ略帽ヲ以テ制帽ニ代フルコトヲ得  
右期間生徒ニ在リテハ制帽ニ日覆ヲ付ス

第四條 新ニ入學シタル者ハ其入學許可ノ日ヨリ三週間以内ニ制服制帽ヲ調製スヘシ  
別表

制帽						本 科 普 通 科
形状	頸紐	眼庇	横章	徽章	地質	
海軍形圖ノ如シ	黒革幅三分釦金色櫻花章	革表裏黒	黒絹地幅約一寸一分花菱形浮織模様圖ノ如シ	豎八分五厘、横七分、厚壹分金色圖ノ如シ	黒絨	同
同	同			同	同	上

衣上												略帽	
夏						冬							
形状	地質	形状	袖釦	釦	地質	形状	袖釦	釦	地質	徽章	鉢卷	形状	地質
普通	霜降小倉織	夏ニ同シ	夏ニ同シ	夏ニ同シ	黒若クハ紺絨ヘルノ類	立襟脊廣形圖ノ如シ	輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑五分二個宛	輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑七分	霜降小倉織	制帽徽章ノ約十二分ノ一大ノモノヲ以テ略章トシ之ヲ左側ニ付ス	黒色	普通形圖ノ如シ	麥稈
同	同	同	同	同	黒	同	同	同	同				
		上	上	上	織	上	上	上	上				

覆 日



章 横



章 徽



鈕



圖 式

帽



帽 略



鈕



靴	脚 絆		外 套		冬	
	形状	地質	形状	地質	形状	地質
黒皮	普通	白ズツク	マント形	黒羅紗	普通	黒若ハ紺絨ヘルノ類
同	同	同			同	黒
上	同					小
短						倉
靴	上	上			上	織

### 第十一 神宮皇學館學生取締規則

(大正三年四月八日)  
神宮皇學館訓令第二號

神宮皇學館學生取締規則左ノ通定ム

#### 神宮皇學館學生取締規則

- 第一條 學生ハ本館ノ規則命令ヲ遵奉シ苟モ學生タル體面ヲ汚ス所行アルヘカラス
- 第二條 學生ハ始業時間ヨリ終業時間迄(祭式ノ時間ヲ除ク)ハ必ス制服ヲ着用シ本館所定ノ式日竝ニ神宮參拜等凡テ隊伍ヲ整ヘ行動スル場合ニハ必ス制服制帽ヲ着用シ其ノ他ハ館ノ内外ヲ問ハス制服若クハ袴ヲ著シ外出ノ際ハ必ス制帽ヲ著スヘシ但シ平常ノ場合ニ限り夏期ニ於テハ徽章アル麥藁帽ヲ以テ制帽ニ代フルコトヲ得
- 第三條 集會其ノ他學生間ニテ催ス共同事件ハ豫メ學生監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 學生ハ寮ノ内外ヲ問ハス非常ノ事アルトキハ凡テ學生監ノ指揮ニ從フヘシ
- 第五條 館則第六十九條第二項、第三項ニ據リ外泊ヲ許可セラレタル學生ハ父兄ノ家ニ在ル者ノ外本館所定ノ禁止區域内ニ止宿スルコトヲ得ス但シ禁止區域ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 外泊生轉宿シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第七條 病氣其ノ他事故ノ爲メ缺席セントスルトキハ其事由ヲ具シ事前ニ届出ツヘシ

第八條 引續キ三日以上缺席セントスルトキハ病氣ニ因ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ事故ニ因ルモノハ保證人ノ證明書ヲ添フヘシ但シ診斷書ハ場合ニ依リ館醫ノ作爲シタルモノニ限ルコトアルヘシ

第九條 學生ヨリ差出ス願届ハ總テ館長ニ宛テ學生監部ニ差出スヘシ

第十條 病氣其ノ他事故ノ爲メ歸省又ハ旅行セントスルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ父兄ノ病氣等至急ヲ要スル場合ニ限り電報又ハ來狀ヲ以テ保證人ノ連署ニ代フルコトヲ得

第十一條 前條ノ歸省旅行ニシテ一週間ニ亘ルトキハ本館ヨリ借用セル圖書物品ヲ返納スヘシ

第十二條 本館ノ圖書物品ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其ノ情狀ノ如何ニ依リ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十三條 本館又ハ教務庶務學生監部ヨリ發スル命令規則等ノ揭示ハ特ニ注意シテ熟讀スヘシ

## 第十二 寄宿寮規則

(大正十一年四月八日)  
神宮皇學館訓令第一號

### 第一章 總則

第一條 寄宿寮ハ之ヲ精華寮ト稱ス

第二條 精華寮ヲ分チテ啓發、博愛、義勇、遵法ノ四寮トシ全寮生ヲ之ニ分屬セシム

分屬ハ學生監部長之ヲ定ム

第三條 精華寮學生ハ學生監指導ノ下ニ寮綱領及規約ヲ遵守シ自治生活ヲナス

第四條 寮綱領ハ精華寮訓育ノ方針ニシテ學館之ヲ定ム

第五條 寮規約ハ精華寮自治ノ方法ヲ規定スルモノニシテ寮生之ヲ發議シ學生監ヲ經テ館長ノ許可ヲ經ルモノトス

### 第二章 經費

第六條 左ニ掲クル費用ハ寮生ノ負擔トス

一、食費 炊事ニ關スル費用(食料、食器具、炊事雜費)

一、雜費 其他ノ自治生活ニ必要ナル費用(新聞、雜誌、圖書、集會、旅行、弔慰、旌表等)

前項ノ定額及費目ハ寮生總會ノ決議ニ依リ各別ニ之ヲ定ム

第七條 食費雜費ハ互ニ流用スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ寮生總會之ヲ決議シ學生監ヲ經テ館長ノ許可ヲ經ルモノトス

第八條 經費ハ學生監部ニ於テ之ヲ保管出納ス

第九條 經費ハ月納トシ前月末日迄ニ學生監部ニ納付スヘシ

第十條 前條諸費ノ決算期ハ學年末トシ學生監決算書ヲ作成シ館長竝ニ寮生ニ報告ス

第十一條 經費決算期ニ至リ剩餘アリタルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越シ不足セルトキハ現寮生ヨリ之ヲ決濟スルモノトス

第十二條 精華寮ハ負債ヲナスコトヲ得ス

### 第三章 委員

第十三條 精華寮ニ左ノ委員ヲ置ク

寮委員若干名 室委員若干名

寮委員ノ任期ハ一學年トシ室委員ノ任期ハ一學期トス

第十四條 寮委員ハ全寮生ノ無記名連記投票ニ依リ毎年一月中ニ所要ノ人員ヲ互選シ約倍數ノ候補者ヲ得票順ニ依リテ推薦セシメ其ノ中ニ就キ館長之ヲ選擇任命ス

前項ノ選舉事務ハ學生監立會ノ下ニ寮委員之ヲ執行ス

寮委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ第一項ノ候補者ノ中寮委員ニ選任セラレタル者ヲ除ク他ノ候補者ノ中ヨリ館長新ニ之ヲ選擇任命ス

室委員ハ每學期始メ室生ノ互選ニ依リ學生監部長之ヲ命ス

第十五條 寮委員ハ寮内自治整理ノ責ニ任シ室委員ハ室内自治ノ責ニ任ス

第十六條 館則ニ依リ懲罰ヲ受ケタルコトアル者ハ委員タルコトヲ得ス又委員就職中懲罰ニ處セラレタルトキハ其職ヲ失フモノトス

#### 第四章 會議

第十七條 會議ヲ分チテ協議會、寮委員會、寮生總會ノ三種トス

協議會ハ寮委員室委員ヲ以テ組織シ寮規約ノ制定改刪其他自治ニ關スル重要ナル事項ニ就キ決議ヲナシ又ハ建議ヲナスコトヲ得

寮委員會ハ寮内ノ自治整理ニ關スル事項ヲ決議シ又ハ學生監ノ諮問ニ答申スルモノトス

寮生總會ハ本則第六條第七條ニ規定セル事項ノ決議ヲナシ又ハ自治生活ニ關シ決議ヲナスコトヲ得

第十八條 協議會及寮委員會ハ寮委員ノ發議ニヨリ之ヲ開キ又ハ學生監部長ノ召集ニ應ス但室委員總員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ協議會ノ開會ヲ請求スルコトヲ得

寮生總會ハ學生監部長之ヲ召集ス但シ寮生總員半數以上ノ同意ヲ以テ其開會ヲ請求スルコトヲ得

### 第十三 神宮皇學館學生生徒喪暇規程

(大正四年七月一〇日)  
神宮皇學館訓令第三號

神宮皇學館學生生徒喪暇規程左ノ通定ム

神宮皇學館學生生徒喪暇規程

第一條 學生生徒ノ父母、祖父母、兄弟姉妹妻子死亡シ服忌ヲ受クルトキハ直ニ届出ツヘシ

第二條 前條服忌ヲ受クル場合ニハ此ノ規程ニ依リ喪暇ヲ與フヘシ

第三條 父母ノ喪暇ハ五日祖父母兄弟姉妹妻子ノ喪暇ハ三日トス

第四條 喪暇ハ本人カ計算ニ接シタル日ヨリ起算ス

第五條 喪暇中ハ本人ノ請願ニ依リ歸省又ハ外宿ヲ許可ス但シ此ノ場合ニハ往復ニ要スル日數ヲ喪暇ニ加算ス

第六條 葬式ノ當日ハ缺課セシム

第七條 喪暇中及葬式當日ハ缺課時數ニ算入セス

### 第十四 神宮皇學館館費生規則

(大正四年八月二日)  
神宮皇學館訓令第二號

神宮皇學館館費生規則左ノ通定ム

#### 神宮皇學館館費生規則

第一條 本館規則第三十五條ニ據リ撰定セラレタル館費生ニシテ本館ノ認許シタル學校ヲ卒業シタル者ハ本規則ヲ遵奉スヘシ

第二條 館費ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ支給ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内本館指定ノ職務ニ從事セシムルコトアルヘシ但シ成業後滿一ケ年ヲ經過スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 館費ヲ受ケタル者本館ノ主旨ニ背キ又ハ本館ニ對スル義務ヲ履行セサルトキハ嘗テ給與シタル館費ヲ一時ニ償還セシム

第四條 本館規則第三十七條ニ據リ差出シタル誓約書ハ義務解除シタルトキ之ヲ返付ス

### 第十五 神宮皇學館圖書閱覽規程

(大正二年五月一二日)  
神宮皇學館訓令第二號

(沿革) 大正四年七月一四日館訓令第一號改正

神宮皇學館圖書閱覽規程左ノ通改正ス

#### 神宮皇學館圖書閱覽規程

第一條 本館ノ圖書ハ之ヲ書庫ニ收藏シ圖書閱覽室ヲ設ケテ職員學生生徒ノ閱覽ニ供ス

第二條 本館ノ圖書ニシテ授業若ハ執務上特ニ必要ノモノハ館長ノ許可ヲ經テ一定ノ個所ニ備ヘ置クコトヲ得

第三條 學生生徒ノ教科用書ニシテ本館收藏ノ圖書ハ差支ナキモノニ限り之ヲ貸付スルコトヲ得

第四條 圖書閱覽室ハ本館休日ヲ除キ毎日始業一時間前ヨリ午後九時迄之ヲ開ク但シ臨時之ヲ開閉シ若ハ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 圖書ヲ借受ケムトスル者ハ所定ノ用紙ニ書名冊數函架番號月日氏名(學生生徒ハ學級名ヲモ附記スヘシ)ヲ詳記シ捺印ノ上係員ニ差出スヘシ



第六條 圖書閱覽室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談話、喫煙其ノ他他人ノ妨害トナルヘキ行爲アルヘカラス

第七條 圖書閱覽室ニ於テ閱覽ノ爲借受ケ得ヘキ圖書ノ數ハ一時ニ三部十冊以内トス

第八條 圖書閱覽室ニ於テ閱覽ヲ了リタルトキハ直ニ係員ニ返納スヘシ

第九條 本館職員ハ書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第十條 本館教官ハ十部三十冊其ノ他ノ職員ハ五部十冊ヲ限リ圖書ヲ借受ケ書庫外ニ携出スルコトヲ得

第十一條 前條ニ據リ携出シタル圖書ハ毎年七月十五日迄ニ悉皆返納スヘシ但シ時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第十二條 携出シタル圖書ハ轉貸ヲ許サス

第十三條 圖書借受中之ヲ紛失シ或ハ毀損汚染シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシム

前項ノ手續未了中ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス

## 第十六 神宮文庫規程

(大正九年五月二十八日  
神宮司廳達 第九號)

(沿革) 大正一一年二月二十九日神宮司廳達第一五號、同一五年七月一三日同達第五號、昭和二年一二月一、二日同達第九號改正

神宮文庫規程左ノ通改正ス

### 神宮文庫規程

第一條 神宮文庫ハ神宮所藏ノ圖書ヲ保存シ別ニ定ムル規定ニヨリ之ヲ閱覽又ハ貸附セシム

第二條 神宮文庫ノ管理ハ神宮皇學館長ニ之ヲ委任ス

第三條 神宮皇學館長ハ神宮文庫ノ事務ヲ神宮皇學館職員ニ之ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條 神宮文庫ニ書記若干人ヲ置キ神宮皇學館長之ヲ命ス

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條 神宮文庫ニ圖書原簿、圖書出納簿及圖書貸出簿ヲ備ヘ圖書ノ出納ヲ明記スヘシ

第六條 寄贈圖書ノ受入ハ神宮皇學館長ノ決裁ヲ經テ之ヲ圖書原簿ニ登載シ神宮文庫名ヲ以テ受領書ヲ

寄贈者ニ發送スヘシ

前項寄贈圖書ヲ受入レタルトキ神宮皇學館長ハ之ヲ神宮大宮司ニ報告スヘシ

第七條 左ニ掲クル事項ハ神宮文庫管理者タル神宮皇學館長之ヲ專行スルコトヲ得

一、月額五拾圓以内ノ雇員採用解免

二、職員ノ出張

三、職員ノ看護歸省、墓參、轉地療養若ハ忌引賜暇中ノ旅行

四、職員除服出仕

五、雇員一時金給與

六、神宮文庫及附屬土地建物保管ニ關スルコト

前項第一號第四號及第五號ニ付テハ專決ノ都度神宮大宮司ニ報告スヘシ

第八條 神宮皇學館長ハ前年施行シタル神宮文庫事務ノ狀況ヲ一月末日限り神宮大宮司ニ報告スヘシ

第九條 神宮皇學館長ハ經伺ノ上神宮文庫職員服務規程ヲ設クルコトヲ得

第十條 神宮文庫ニ協議員ヲ置クコトヲ得

神宮皇學館長前項協議員ヲ置キタルトキハ神宮大宮司ニ報告スヘシ

### 附則

本達施行ノ際現ニ神宮文庫書記タル者ハ別ニ辭令書ヲ用キス本規程ニ依リ神宮文庫書記ヲ命セラレタルモノトス

大正九年司廳達第九號神宮文庫規則ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## 第十七 神宮文庫圖書閱覽規則

(大正一五年七月一三日  
神宮司廳達第六號)

神宮文庫圖書閱覽規則左ノ通定ム

神宮文庫圖書閱覽規則

第一條 神宮文庫圖書閱覽又ハ貸附ハ本則ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條 圖書閱覽時限左ノ如ク定ム

四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル 午前八時ヨリ午後九時

十一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル 午前九時ヨリ午後九時迄

第三條 本文庫定期ノ休日左ノ如シ但特別ノ事由アル時ハ此ノ限ニ在ラス

第四章 本館諸規則 第十七 神宮文庫圖書閱覽規則

國祭日及祝日

年始、年末

一月一日ヨリ三日迄  
十二月二十九日ヨリ三十一日迄

前項ノ外所藏圖書ノ曝涼其他已ムヲ得サル事由ニ依リ臨時休日ノ必要アルトキハ神宮皇學館長(以下館長ト)ハ大宮司ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第四條 圖書ヲ閱覽セムトスルモノハ本文庫所定ノ閱覽用紙ニ規定ノ事項ヲ記入シ係員ニ差出スヘシ但官職アルモノハ其官職名學生ハ其ノ在學ノ校名ヲ記シ住所ノ記載ヲ要セス

第五條 圖書ノ閱覽ハ一人同時ニ三部三十冊以内トス

第六條 閱覽人ハ所定ノ閱覽室以外ニ於テ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ス

閱覽中文庫外ニ出テムトスルモノハ圖書ヲ一旦係員ニ返付スヘシ

第七條 閱覽室ニ於テハ音讀、雜談、喫煙其ノ他他人ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ禁ス

第八條 閱覽人圖書ノ返納ヲ爲シタルトキハ閱覽用紙ニ係員ノ認印ヲ受ケ退出ノ際之ヲ返付スヘシ

第九條 閱覽又ハ貸付中ノ圖書ヲ摹寫セムトスルトキハ豫メ館長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 閱覽人本則ニ違背スルカ又ハ係員ノ指示ニ從ハサルトキハ閱覽中ト雖モ圖書ヲ返納退出セシムヘシ

第十一條 本文庫所藏圖書ヲ神宮所屬ノ各部署ニ於テ事務ノ參考ニ供セムトスルトキハ供用簿ニ依リ出納ヲ爲スヘシ

前項圖書ノ供用期間ハ一箇年以内トシ期間内ニ返納スルコト能ハサル場合ハ更ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 前條以外ノ官衙學校若ハ特別ノ事由ニヨリ本文庫所藏圖書ノ借覽ヲ願出テタルモノニ對シ之

ヲ貸付セントスルトキ館長ハ大宮司ノ決裁ヲ經テ之ヲ貸付スルコトヲ得但圖書ヲ貸付シタルトキハ借

用證書ヲ徴スヘシ

前項圖書貸付期間ハ六箇月以内トシ期限内ニ返納スルコト能ハサル場合ハ更ニ其ノ手續ヲ爲サシメ貸付ス

第十三條 神宮職員(遠隔官署在勤員ヲ除ク)ニ對シテハ一人三部三十冊以内ヲ限り所定ノ借用證書ヲ徴シ之ヲ貸付

スルコトヲ得

前項圖書貸付期間ハ一箇月以内トシ期限内ニ返納スルコト能ハサルトキハ更ニ其ノ手續ヲ爲サシメ一回限り引續キ貸付スルコトヲ得

第十四條 特種ノ圖書ヲ閱覽又ハ貸付セムトスルトキハ館長ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條 貸付中ノ圖書ニシテ本文庫ニ必要ヲ生シタル場合ハ臨時之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十六條 閱覽中若ハ借用中圖書ヲ亡失シ或ハ汚損シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代價ヲ辨償セシム但本條ノ手續未了ノ間ニ於テハ圖書ノ閱覽又ハ貸付ヲ許サ、ルモノトス

第十七條 本則ニ定ムルモノ、外必要ナル事項ハ館長之ヲ定ム

### 第十八 神宮文庫當直規程

(大正一五年一月一八日  
神宮皇學館訓令第四號)

神宮文庫當直規程左ノ通定ム

#### 神宮文庫當直規程

第一條 當直ハ一名トシ書記及雇ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 當直割當ハ係員ニ於テ豫メ一ヶ月毎ニ番表ヲ製シ圖書部長庶務部長ノ決裁ヲ經タル上各員ノ認印ヲ徵ス

第三條 當直ノ勤務時限左ノ如シ

平日 退出時限ヨリ翌日出勤時限迄  
休日又日曜日 出勤時限ヨリ翌日出勤時限迄

第四條 當直員ハ平日ニ於テハ退出時限ヨリ午後九時迄

日曜日ハ出勤時限ヨリ午後九時迄ノ閱覽時間中圖書出納ニ任ス

第五條 平日ノ當直員ハ翌日ノ午十二時ヨリ日曜日ノ當直員ハ翌日ノ出勤時限ヨリ休暇スルコトヲ得

第六條 當直割當ノ後公務若ハ疾病、忌引等ノ事故ヲ生シタル時ハ臨時當番ヲ割當補充ス

第七條 當直ヲ交代シタル時ハ係員ニ通告シ係員ハ之ヲ兩部長ニ報告スルヲ要ス

第八條 當直員ハ鍵函ヲ管守スヘシ

第九條 當直員ハ左ノ簿冊ヲ管理シ勤務終了ノ際ハ各係員又ハ次番ニ引繼クヘシ

- 一 當直日誌
- 一 當直規程
- 一 當直番表
- 一 郵便受付簿
- 一 發送簿
- 一 證印簿
- 一 郵便電信規則

一 閱覽證

第十條 當直員ハ臨時郵便發送用トシテ物品取扱主任ヨリ郵便切手ヲ領置スヘシ

第十一條 當直日誌ニハ月日職氏名及當日取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載スヘシ

發送簿ニハ發送文書ノ種類宛名及郵稅額ヲ詳記スヘシ

證印簿ニハ文書物件ノ種類員數ヲ記載シ職員宛ノモノハ適宜各自ニ送附シ受領印ヲ徴スヘシ

第十二條 至急ヲ要スル時ハ臨機適應ノ處置ヲナス又ハ主務員ノ出勤ヲ求ムヘシ

第十三條 各員退出後ハ各室ヲ巡視シ文書ノ散逸等アル時ハ之ヲ檢收シ特ニ火ノ元戸締ニ注意スヘシ

第十四條 非常ノ節ハ館長以下職員ニ急報シ門戸ノ開閉點燈ノ配置文書其他重要品ノ搬出保護等臨機ノ

處置ヲナスヘシ

## 第十九 神宮參拜規程

(大正二年一月二〇日)  
神宮皇學館訓令第三號

(沿革) 昭和三年四月二五日館訓令第二號改正

神宮參拜規程左ノ通改ム

### 神宮參拜規程

第一條 參拜ニ出向ノ際ハ左ノ服裝ヲ爲スヘシ

職員 通常服「シルクハット」又ハ黒山高帽但シ病氣其ノ他事故アルトキハ紋付羽織袴ヲ以テ代用スル  
コトヲ得

學生生徒 制服、制帽

第二條 全學生生徒ヲ以テ左ノ五個小隊ヨリ成ル一個中隊ヲ編制ス

第一小隊 本科第四學年生

第二小隊 本科第三學年生

第三小隊 本科第二學年生

第四小隊 本科第一學年生

第五小隊 普通科 生

第三條 各小隊ハ身長ノ順位ニ依リ隊伍ヲ編制シ級長ヲ以テ小隊長ニ充ツ

第四條 中隊ハ小隊順ニ整列シ小隊長ハ各其ノ所屬小隊ノ右翼ニ占位ス

兩宮共表參道御橋以內ハ二列側面縱隊ヲ以テ行進ス

第五條 參拜ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

一、職員ハ二列トナリテ板垣御門内ニ參入シ外玉垣御門前ニ整列ス次ニ館長進ミテ列ノ中央前約二步ノ地位ニ占位シ一同ト共ニ拜禮ヲ行フ拜禮了レハ職員ハ右側面向キヲ爲シ御門外ニ退出ス館長ハ御門側適宜ノ地點ニ就キ學生生徒ノ拜禮了ルヲ待チテ退出ス

二、學生生徒ハ小隊長ノ指揮ニ依リ一小隊毎ニ二列側面縱隊ヲ以テ板垣御門内ニ參入シ外玉垣御門前

ニ整列ス次ニ小隊長進ミテ隊ノ中央前約二步ノ地點ニ占位シ小隊ト共ニ拜禮ヲ行ヒ了リテ右側面向キヲ爲シテ御門外ニ退出シ豫メ示サレタル地點ニ停止シテ後命ヲ待ツヘシ

第六條 小隊長ハ板垣御門外ニ於テ脱帽ヲ命シ御門退出後着帽ヲ命スヘシ

第七條 拜禮ハ再拜拍手ニ式ニ依リテ之ヲ行フ

附 則

天候其他止ムヲ得サル場合ニハ本規程ニ依ラス機宜ノ命令ヲ發スルコトアルヘシ

## 第二十 神宮參拜日及勅語捧讀日

(明治二十三年一月二十二日)  
神宮司廳達第三一號

(沿革) 大正三年五月一五日神宮司廳達第一二號、同年一〇月三〇日同第一八號改正

神宮參拜日及勅語捧讀日

神宮參拜日及勅語捧讀日ヲ左ノ通相定候ニ付參拜日ハ職員學生生徒一同參拜シ捧讀日ニハ同シク捧讀式ニ參列スヘシ

一 神宮參拜日

二月十七日 (神宮祈年祭) 兩大神宮

十月十六日 (神嘗祭) 豐受大神宮

十月十七日 (同上) 皇大神宮

十一月廿三日 (新嘗祭) 兩大神宮

一 勅語捧讀日

一月 一日 新年拜賀日

第四章 本館諸規則 第二十章 神宮參拜日及勅語捧讀日  
第二十一章 創立記念日

一〇六

二月十一日 紀元節

四月廿九日 天長節

十月三十日 勅語發布日

十一月三日 明治節

卒業式日

一 參拜及捧讀日參集時刻並ニ儀式次第ハ其都度揭示スヘシ

一 參拜捧讀式ニハ事故ナクシテ不參スルコトヲ得ス但シ病氣其他不得已事故アルトキハ必時刻前届出ツヘシ

第廿一 創立記念日

(明治三五年一月二五日)  
神宮司廳達第二九號

毎年四月三十日ヲ以テ神宮皇學館創立記念日ト定ム

第五章 獎學金

第一 恩賜獎學資金

一、明治四十四年五月 皇后陛下神宮御參拜ノ節、獎學ノ思召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜ハル

二、大正四年七月 皇太子殿下神宮御參拜ノ節、獎學ノ思召ヲ以テ金參百圓ヲ下賜ハル

三、大正十一年十一月 皇后陛下本館ニ行啓ノ際、獎學ノ思召ヲ以テ金五百圓ヲ下賜ハル

○恩賜獎學資金ハ其ノ利子ヲ以テ毎年優良學生生徒ノ賞品費ニ充ツ

第二 寄附金

一、大正十一年一月三重縣志摩郡鳥羽町御木本幸吉氏ヨリ學生獎學ノ爲メ金壹萬圓ノ寄贈ヲ受ク

二、大正十一年六月神宮皇學館館友會ヨリ本館改築記念トシテ神祇及國體ニ關スル研究ノ爲メ金五萬圓ノ寄贈ヲ受ク

### 第六章 本館出版圖書

書名	發行年月
光明寺殘篇	大正八年二月
伊勢國出版圖書展覽會目錄	同 十年十一月
南北朝時代 に於ける 神宮祠官ノ勤王	同 十五年三月
延喜式神名帳	昭和三年三月
伊勢參宮資料展覽會出品目錄	同 年七月
神宮要綱	同 四年三月
勢陽論叢第一輯	同 五年八月

### 第七章 職員 (昭和五年九月一日現在)

#### 第一 本館職員

○館長	平田貫一	鹿兒島
○教授	千田憲	京都
國語	竹島寬	富山
國史	石井鹿之助	廣島
漢文	若山善三郎	愛知
國史	鈴木友吉	愛知
修身	西村爲之助	滋賀
神道、國史、法制	木村春太郎	
神道、法制、修身		



東洋史、英語

哲學、普通科哲學

英語

漢文

西洋史、英語

國語

國語

國史

○配屬將校

體操科主任  
步兵第三十三聯隊附

陸軍歩兵中佐  
正六位勳五等

松本賢六郎 兵庫

武道、國語

武道

武道

○助教

正七位勳六等

金剛幸之助 三重

陸軍歩兵少尉  
正八位

坂上直士 鹿兒島  
雪竹 皎佐賀

○學生監

教授 鈴木友吉

助教 坂上直士

助教 雪竹 皎

○教諭

神道、修身、法制、有職

國語、簿記

祭式、禮式、國語、武道、本科祭式

理科、武道、體操

國史、地理

神道、國語、東洋史

漢文

英語、理科、數學

圖畫、數學、習字

正六位勳六等 木村春太郎 三重

助教 金剛幸之助

從七位勳七等 三東義邦 島根

助教 坂上直士

從七位 佐藤虎雄 山形

文士 來田親明 三重

折尾國義 鹿兒島

農學士 中田孝次 三重

今井重信 三重

○講師

教練

陸軍歩兵大尉  
從六位勳五等功六級

永田 癸三郎 三重

國史

神宮 彌宜  
正五位勳五等

阪本 廣太郎 奈良

法制

山田 區裁判所檢事  
從五位勳四等法學士

世良 靜一 廣島

英語、哲學、普通科修身、英語

文學士

植村 芳男 三重

漢文

近藤 奎三 三重

神道、普通科神道

從四位勳五等

中西 健郎 三重

○書記

助教授

金剛 幸之助

勳八等

片岡 小次郎 三重

勳八等

北出 鎮吉 三重

勳八等

河崎 彌七 三重

勳八等

上野 佐太郎 三重

○授業囑託

武道

教練

教練、普通科教練

陸軍歩兵大尉  
從六位

渡邊 万治郎 三重

雅樂、普通科雅樂

陸軍歩兵曹長  
勳八等

清海 義一 鳥取

雅樂、普通科雅樂

神宮 伶人

佐野 英男 三重

雅樂、普通科雅樂

神宮 伶人

檜山 文一 三重

○普通科授業囑託

西洋史、法制、英語

神宮 伶人

岡田 良三 三重

國語

法學士

細野 鐵太郎 三重

○學生監部事務員囑託

大崎 太藏 三重

○雇

福井 むめ 滋賀

高山 喜夫 三重

奥田 一隆 三重

○館 醫

醫學士 服部 正武 三重

○衛生顧問

日本赤十字社三重支部  
山田病院長 醫學博士

坂井 精一 山口

第二 評議委員

正三位勳一等 文學博士	從四位勳二等 文學士	從四位勳五等 文學博士	從三位勳一等 文學士	正三位勳一等 文學博士	正三位勳一等 文學博士
三上 參次	田所 美治	松本 愛重	塚本 清治	水野 鍊太郎	上田 萬年

第三 神宮文庫職員

○書 記

岡田 米夫 東京	蘭田 守孝 三重
----------	----------

○雇

物品取扱主任

弓場 史郎 奈良	濱地 顯雄 東京
----------	----------

第四 神宮文庫協議員

教 授 千田 憲	教 授 竹島 寛	教 授 西村 爲之助	教 授 小野田 萬壽	教 諭 木村 春太郎
----------	----------	------------	------------	------------

神宮禰宜 慶光院利敬  
 神宮禰宜 阪本廣太郎  
 神宮禰宜 石川勝  
 臨時大神宮史編修囑託 大西源一

### 第五 神宮皇學館職員分課

#### ○教務部

部長 教 授 千田憲  
 研究室主任 教 授 小野田萬壽  
 (兼) 書 記 北出鎮吉  
 書 記 河崎彌七  
 授業囑託 佐野英男  
 雇 西井力松

#### ○學生監部

部長 教 授 鈴木友吉  
 助 教 授 坂上直士  
 助 教 授 雪竹皎  
 講 師 永田癸三郎  
 授業囑託 清海義一  
 事務員 福井心め

#### ○圖書部

部長 教 授 竹島寬  
 書 記 北出鎮吉  
 雇 宇城源三郎

#### ○庶務部

部長 物品會計員 收入員 教諭兼書記 金剛幸之助  
 書 記 片岡小次郎  
 (兼) 書 記 上野佐太郎

○普通科

主事教諭	高山喜夫
生徒監教諭	木村春太郎
生徒監教諭	三東義邦
生徒監教諭	折尾國義
教諭	今井重信
書記	上野佐太郎
書記	大崎太藏
授業囑託	奧田一隆
雇	

第六 學級擔任

本科第四學年第一部	早川教授
同 第二部	小野田教授
同 第三學年第一部	酒井教授

第七 職員異動 (自昭和四年七月一日起至同五年六月三十日)

月日	摘要	姓名
六三〇	雇ヲ命ス 教務部勤務ヲ命ス	西井力松
同	庶務部長ヲ解ク	西村爲之助
同	庶務部長ヲ命ス	金剛幸之助
同	教務部兼務ヲ解ク	金剛幸之助
八 一〇	外務省文化事業補給ヲ受ケタルニヨリ支那視察ヲ命ス(三十六日間) 教授	石井鹿之助
同 二二	願ニ依リ神宮文庫書記ヲ免ス	松井辰雄

第七章 職員 第七 職員異動 第八 前職員

110

九	一六	願ニ依リ講師囑託ヲ解ク	講師	平野直大
一一	四	講師ヲ囑託ス		植村芳男
一二	九	願ニ依リ講師囑託ヲ解ク	講師	青戸波江
昭 和 五 年	七	臨時講師ヲ囑託ス	從七位	松村幾平
一	二三	願ニ依リ履ヲ免ス	神宮文庫履	山 碕 齋
二	七	依願免本官	教 授	松平良郎
三	一	御用濟ニ付臨時講師ヲ解ク	臨時講師	松村幾平
同	一一	神宮文庫書記ヲ命ス		岡田米夫
同	三一	神宮文庫履ヲ命ス		弓場史郎
四	一	講師ヲ囑託ス		近 藤 柰
同	一〇	講師ヲ囑託ス	從四位勳五等	中西健郎
同	二〇	講師囑託ヲ解ク	講 師	黒住正夫

第八 前 職 員

(大正二年九月以降)

大	二、一	大	二、九	退職	講 師	矢野太郎
明	三六、一一	同	一〇	退官	教 授	矢野萬太郎
	三六、一一	同	一一	轉任	同	井上頼文
	三八、二	同	二	同	同	橋村正環
	四五、六	同	五	退職	履	庄田倍三
	三二、一	同	八	退官	教 授	尾崎八束
	四二、六	同	一〇	轉任	書 記	池田豊秀
	四三、五	同	三	退職	講 師	宮 尾 詮
	三三、六	同	四	同	教 授	中西健郎
	三六、一一	同	同	同	講 師	山田岩次郎
	三九、四	同	五	退官	助 教	宇仁義一
	三六、三	同	三	同	教 授	矢島錦藏
	三七、九	同	同	同	同	安藤正次
	四一、一	同	同	轉任	授業囑託	松田長大

第七章 職員 第八 前職員

111



第七章 職員 第八 前職員

大一一、二	一一、七	退職	授業囑託	井上 香木
九、四	同、同	退官	助教	尾崎 伊助
七、一一	同、同	退職	學生監部事務員囑託	藤田 菊松
一一、四	同、九	同	講 師	内藤 雋輔
一一、一〇	一二、三	同	學生監部事務員囑託	小川 地喜俊
一〇、四	同、四	同	講 師	樋賀 安平
同、同	同、同	同	同	石川 正
九、四	同、同	同	同	德江 治之助
一二、三	同、一一	同	神宮文庫書記	小島 鉦作
一〇、四	一三、三	同	講 師	濱田 常成
一二、四	同、同	同	同	仙波 光三
一二、四	同、同	同	同	山田 八重治
一二、五	同、八	同	同	樋山 良廣
一二、四	同、一二	同	同	野島 勝七

一二四

第七章 職員 第八 前職員

三、八	同、同	退官	教 授	竹 島 寛
一〇、九	一四、一	退職	講 師	井 桁 貞 男
九、五	同、四	退官	教 授	磯 部 精 一
一四、一	同、六	退職	神宮文庫雇	大 宿 新
八、一二	同、九	轉任	教 授	久保川 平三郎
一四、六	同、一一	退職	神宮文庫雇	山 崎 隆 平
六、三	同、一二	死亡	講 師	伊 藤 丈 吉
八、六	一五、三	退官	館 長	上 田 萬 年
一五、三	同、一一	死亡	講 師	坪 内 孝
一四、一一	昭二、二	退職	神宮文庫雇	一 丁 田 國 藏
一五、一〇	同、三	同	臨時講師	北 西 鶴 太 郎
一二、四	同、同	同	學生監部事務員囑託	小 川 稠 吉
五、五	同、五	退官	教 授	鈴 木 暢 幸
一〇、四	同、八	退職	館 醫	服 部 正 文

一二五





第八章 學生生徒

第一 在學中退學者

(自昭和四年七月一日起至同五年六月三十日)

月日	理由	學年	氏名
九、七	依願	普一	田代重信
同、一四	同	普三	眞木保孝
同、二七	死亡	本一	内藤信宏
一、一八	依願	普二	城守人
一、二七	除名(第二十條ノ六)普一		我彦忠雄
五年			
一、二七	依願	本一	松養榮年
同、同	同	本一	鈴木二郎
四、五	入學許可取消		濱口嘉一
同、七	依願	本三	藤田穰
同、九	入學許可取消		磯貝正義
月日	理由	學年	氏名
一、一一	入學許可取消		伴壽太郎
四、一一	依願	本一	伊藤邦雄
同、同	同	本二	畠野榮次
同、一六	入學許可取消		赤枝清
同、同	同		河内山正之
同、一八	除名(第二十條ノ五)本二		藤江幸雄
六、三〇	依願	本三	青木孝一

第二 本科及普通科入學志願者及

入學者本籍別表 (昭和五年募集)

府縣	本科志願者	普通科志願者	同入學者	府縣	本科志願者	普通科志願者	同入學者
北海道	三	四	一	茨城	一	〇	〇
東京	三	一	一	栃木	一	〇	〇
京都	一八	五	一	奈良	二四	二	一
大阪	三	四	〇	三重	六四	一〇	五
神奈川	一	二	〇	愛知	四四	九	〇
兵庫	二七	三	二	静岡	二〇	二	一
長崎	一〇	三	一	山梨	四	二	一
新潟	七	一	一	滋賀	一〇	一	〇
埼玉	三	一	一	岐阜	二六	七	一
群馬	四	一	一	長野	六	一	三
千葉	一	一	一	宮城	一	〇	二

和歌山	山口	廣島	岡山	鳥根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島
一八	一七	一八	一四	二	四	二	九	四	二	二	二	二	三
三	五	四	四	〇	一	〇	〇	一	一	一	〇	〇	一
二	二	四	一	二	二	二	一	一	一	二	一	一	一
〇	〇	二	〇	二	一	〇	一	一	一	一	〇	〇	一
合計	樺太	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	
五四三	一	一	二七	六	二六	二四	二〇	四	一	〇	五	二	
八六	一	〇	一	〇	〇	三	二	四	一	二	二	二	
七二	一	一	一	一	一	一	三	三	二	一	一	一	
二六	一	一	一	一	〇	一	〇	二	〇	一	一	一	

第三

本科入學志願者及入學者  
父兄職業別 (昭和五年募集)

職業別	志願者	入學者	職業別	志願者	入學者	職業別	志願者	入學者
神職	七〇	一三	神道教師	二	〇	職人	七	二
教員	六三	一〇	僧侶	四	〇	無業	九	〇
官公吏	四	七	銀行員	四七	九	計	五四三	八六
商業	七〇	九	會社員	四	〇	無職	四八	九
工業	一〇	五	軍人	四	〇			
農業	一五九	三	醫師	一	〇			
			漁業	一	〇			

第四

本科入學志願者及入學者  
出身學校別 (昭和五年募集)

府縣別	出身學校	入學志願者	入學者	府縣別	出身學校	入學志願者	入學者
北海道	函館中	一	一	北海道	網走中	一	一
	室蘭中	〇	〇		稚內中	一	一

京都							東京							
聖峰中	大谷中	宮津中	舞鶴中	福知山中	桃山中	京都三中	京都二中	立教中	郁文館中	明治中	名教中	成城中	海城中	六中
三	一	二	二	三	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	一
大阪														
桃山中	浪速中	住吉中	鳳野中	生野中	高津中	四條畷中	富田林中	岸和田中	天王寺中	茨木中	八尾中	堺中	立命館中	東山中
一	五	四	一	一	一	一	五	一	四	三	一	四	四	三
〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	一	〇

兵庫												神奈川		
第一神港商業	瀧川中	神港中	三田中	甲陽中	伊丹中	小野中	龍野中	柏原中	洲本中	第二神戶中	第一神戶中	姫路中	厚木中	堺商業
一	二	一	二	一	二	六	四	一	一	二	三	三	一	一
〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	一	一	二	〇	〇	〇
栃木		千葉			群馬			新潟		長崎				
烏山中	安房中	桐生中	沼田中	太田中	富岡中	佐渡中	柏崎中	新發田中	對馬中	島原中	大村中	佐世保中	瓊浦中	長崎中
一	一	一	一	一	一	一	三	一	二	二	三	一	一	二
〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	一	一	〇	〇	〇

靜岡										山梨				
中泉農中	志太中	庵原中	富士中	見付中	沼津中	掛川中	韭山中	濱松一中	靜岡中	名古屋二商	愛知中	東海中	名古屋中	尾張中
一	一	二	一	五	二	一	二	三	二	一	三	四	三	三
〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	一	〇	一	〇	一	〇	一	〇
岐阜										滋賀			山梨	
上田中	松本中	惠那中	武義中	本巢中	東濃中	斐太中	大垣中	岐阜中	虎姫中	八日市中	水口中	膳所中	彦根中	甲府中
一	一	二	四	四	三	二	五	一	二	二	一	二	二	二
一	〇	一	〇	〇	一	一	一	〇	〇	〇	一	〇	〇	一

三重							奈良							
勸學院中	桑名中	木本中	神戸中	宇治山田中	上野中	富田中	津中	縣立商業	天理中	宇陀中	五條中	畝傍中	郡山中	佐野中
四	三	二	三	三	六	三	五	一	一	三	四	五	二	一
〇	〇	〇	〇	九	〇	〇	一	〇	〇	二	〇	二	〇	〇
愛知														
惟信中	小牧中	成章中	明倫中	刈谷中	半田中	一宮中	熱田中	豐橋中	津島中	岡崎中	第一中	宇治山田商業	松阪商業	勵精中
一	四	一	七	二	一	二	四	二	四	四	三	四	一	四
〇	一	一	〇	〇	〇	〇	二	〇	一	一	一	〇	一	〇

長野		宮城		福島		岩手		青森		秋田		山形		福井	
飯山	松本二	下高井農	佐沼中	東北學院中	相馬中	雙葉中	盛岡中	弘前中	青森中	角館中	米澤中	福井中	小濱中	北陸中	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
石川			富山		鳥取			山口							
金澤一	金澤二	大聖寺中	羽咋中	輪島中	松任農	魚津中	礪波中	鳥取一中	鳥取二中	米子中	倉吉中	第一岡山中	第二岡山中	津山中	
一	四	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	三	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

岡山										廣島									
矢掛中	天城中	勝山中	關西中	高松農	高師附屬中	福山中	吳中	廣島二中	尾道中	修道中	日彰館中	崇徳中	廣陵中	岩國中					
一	一	一	二	一	一	九	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山口							和歌山												
防府中	長府中	萩中	下關中	宇部中	大津中	鴻城中	和歌山中	田邊中	粉河中	新宮中	海草中	海南中	伊都中	日高中					
二	一	一	二	二	二	一	一	二	二	二	六	二	二	一	二	二	二	二	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

大分														
小城	佐賀	國東	竹田	白杵	宇佐	中津	大分	田川	福岡	三潁	浮羽	若松	八幡	田川
中	中	中	中	中	中	中	中	農林	商業	中	中	中	中	中
一	二	三	一	四	六	二	五	一	一	二	三	三	二	二
〇	〇	〇	〇	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二	一	一

熊本											佐賀			
都城	宮崎	鎮西	九州學院	人吉	御船	宇土	天草	鹿本	熊本	中學	唐津	三養基	唐津	鹿島
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	々	商業	中	中	中
一	一	一	一	一	一	一	二	三	三	一	一	三	三	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一

愛媛						香川				徳島				
吉田	今治	西條	宇和島	松山	師範	小豆島	多度津	三豊	高松	麻植	撫菱	富岡	脇町	徳島
中	中	中	中	中	範	中	中	中	中	中	中	中	中	中
一	一	一	一	三	一	一	一	二	一	一	三	二	一	二
〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	一	〇	〇	〇

福岡														
築上	鞍手	福岡	三池	小倉	八女	朝倉	嘉穂	東筑	中學	中學	豐津	中學	八幡濱	北
中	中	中	中	中	中	中	中	中	傳習	明善	中	修猷	商業	中
一	二	一	六	一	五	五	二	一	四	一	二	二	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇





第八章 學生生徒 第五 學生生徒府縣別員數表 第六 本科學生出身學校別 一四二

府縣別	出身學校	四年同部	三年同部	二年	一年	計
秋田			一			一
福井			一			一
石川				一		一
富山					一	一
鳥取			一			一
島根			一			一
岡山			一			一
廣島			一			一
山口			一			一
和歌山			一			一
德島			一			一
香川			一			一
愛媛			一			一
高知						
福岡			一			一
大分			一			一
佐賀			一			一
熊本			一			一
宮崎			一			一
鹿兒島			一			一
沖繩			一			一
朝鮮			一			一
臺灣			一			一
樺太			一			一
計		三六	三六	三六	三六	一四二

第六 本科學生出身學校別

(昭和五年七月一日現在)

府縣別	出身學校	四年同部	三年同部	二年	一年	計
北海道	函館中					
東京	第六中					
東京	成城中					
東京	名教中					
京都	京都三中					
京都	桃山中					
京都	福知山中					
京都	舞鶴中					
京都	聖峰中					
京都	立命館中					
京都	第一工業					
堺	堺中					
茨木	茨木中					
大阪	岸和田中					
大阪	生野中					
大阪	豐中					
大阪	浪速中					
兵庫	第一神戶中					
兵庫	第三神戶中					
兵庫	豐岡中					
兵庫	洲本中					
兵庫	柏原中					
兵庫	龍野中					
兵庫	甲陽中					
兵庫	大村中					
兵庫	鳥原中					
長崎						
計		一	一	一	一	四

第八章 學生生徒 第六 本科學生出身學校別



						高知	愛媛				香川			
朝倉中	嘉穂中	東筑中	中學傳習	中學明善	豐津中	安藝中	大洲中	今治中	西條中	松山中	多度津中	三豐中	丸龜中	高松中
二					三					二			一	一
									一					
	一	一			一							一		
							一	一						
一			二	一	一	一				一	一	一		一
			一		一							一		一
三	一	一	三	一	六	一	一	三	一	三	一	三	一	三
佐賀		大分			福岡									
鹿島中	臼杵中	宇佐中	大分中	師範	浮羽中	若松中	八幡中	田川中	築上中	鞍手中	福岡中	三池中	小倉中	八女中
					一		一		一			一	一	
一			一											
	一			一										
	二				二	一		一	一	一				一
一		二					三							一
二	四	二	一	一	三	一	四	一	一	一	一	一	一	二

廣島		岡山								島根	鳥取			
吳二中	世羅中	吳一中	福山中	倉敷商業	關西中	興讓館中	天城中	矢掛中	津山中	第二岡山中	濱田中	倉吉中	米子中	鳥取一中
			一	一		一			一		一	一		
			一											
								一	一					一
													二	
	一	一								一	一	一		
一			一		一		一		一			一	一	
一	一	一	三	一	一	一	一	一	三	一	二	三	三	一
德島	和歌山				山口									
撫美中	德島中	伊都中	海南中	海草中	粉河中	多々良中	大津中	下關中	萩中	防府中	德山中	柳井中	岩國中	崇德中
	一			一		一					二	一		
		一								一				一
								一	一					一
			二				一			二				
一		一		二				一		二			一	
一	一	二	二	三	一	一	一	二	一	三	二	一	一	二

鹿兒島		宮崎			熊本					
鹿屋中	大口中	第二鹿兒島中	妻中	都城中	宮崎中	時習中	御船中	天草中	玉名中	中學濟々
								一	一	
	一		一		一					一
	一			一						
一		一					一			
一	二	一								
計	關東洲		臺灣		朝鮮					
	專檢	旅順一中	大連一中	高雄中	臺南一中	裡里農林	釜山中	群山中	龍山中	
三六		一								
二八										
五三	二		一	一			一	一		
二六	一						一			
七	一									
八六					一					一
三〇八	四	一	一	一	一		二	一	一	一

第七 學生生徒生年別員數表

(昭和五年七月一日現在)

本科 生

學級別	出生年		明		大元		計	
第四學年第一部	第三學年第一部	同 第二部	第二學年	第一學年	總計	第四學年第一部	第三學年第一部	同 第二部
大二								
大元								
四四								
四三								
四二								
四一								
四〇								
三九								
三八								
三七								
三五								
計	三六	二六	五三	二六	一〇六	三六	二六	五三

普通 科 生

學年別	出生年		明		大元		計	
第四學年	第三學年	第二學年	第一學年	總計	第四學年	第三學年	第二學年	第一學年
大五								
四三								
三二								
大元								
四四								
四三								
計	一七	二〇	二七	六四	一〇八	一七	二〇	二七

第八 學生生徒氏名

五十音順 (昭和五年七月一日現在)

本科 生

特待生

第四學年

第一部	出身學校 倉吉中	氏名 秋田 幸雄(鳥取)	本籍 兵庫	第一學年	津島中	服部 知一(愛知)	丸龜中	宮田 光保(香川)
	東海中 (副級長)	淺野 明光(愛知)	玉名中	北川 利次(三重)	大垣中	平野 直憲(三重)	濱田 直憲(香川)	
	宇治山田中	一丁田國藏(三重)	濱田中	櫻井勝之進(鳥根)	福山誠之館中	保垣 一(廣島)		
	豐津中	大垣 紋治(福岡)	倉敷商業	鹽尻 幾一(岡山)	朝倉中	堀田 一之(福岡)		
	八日市中	大菅 正利(滋賀)	岸和田中	武田 昌三(大阪)	八幡中	松尾 善雄(福岡)		
	大垣商	大野 信彦(岐阜)	高松中	多田 隆胤(香川)	東海中	松川由太郎(愛知)		
	豐津中	小川 一(福岡)	愛知中	中西 義圓(鳥根)	三池中	松島 八郎(熊本)		
	朝倉中 (級長)	奥野政次郎(三重)	豐津中	長野 國富(福岡)	松山中	三浦 東吾(愛媛)		
	津山中	笠井 京平(岡山)	津島中	服部 知一(愛知)	丸龜中	宮田 光保(香川)		

岐阜中	宮脇 太郎(岐阜)	上野中	上野 藤成(三重)	神戶中	仲見 秀雄(三重)
松山中	向井 和夫(愛媛)	神戶中	岸野 修(三重)	茨木中 (級長)	狹間 一夫(大阪)
天草中	本嶋 竹直(熊本)	宇治山田中	熊谷 貞雄(東京)	長岡中	長谷川 正(新潟)
浮羽中	本園 一守(福岡)	福知山中	小西 武雄(京都)	宇治山田中	林 義夫(三重)
小倉中	森岡 四郎(廣島)	宇治山田中(特)	金剛 正夫(三重)	東濃中	原 榮一郎(岐阜)
興讓館中	安井 俊男(岡山)	福山誠之館中(特)	佐藤 毅(廣島)	柳井中	原田 正直(山口)
金澤二中	横江 義雄(石川)	徳山中	重高 信雄(山口)	岸和田中	牧野 徳一(大阪)
築上中	吉田 喜和(福岡)	多々良中	謝 源泉(臺灣)	第一神戶中	牧野 宏(兵庫)
熊谷中	吉田千代藏(埼玉)	徳山中	大樂 國久(山口)	生野中	宮崎 重吉(石川)
徳島中	秋元 春雄(徳島)	窪業	中垣 忠彦(愛知)	海草中	宮脇 信敬(和歌山)
宇治山田中(特)	池山 聰助(三重)	水口中 (副級長)	長島 克巳(滋賀)	宇治山田中	矢野 旭香(愛媛)
富田中	石垣重石彦(三重)	鹿島中	長島 貞雄(長崎)	西條中	矢野 直人(愛媛)
		宇治山田中	中西 宮夫(三重)		

第三學年

第一部

一 彦根中

東

清哲(滋賀)

白杵中

安東

薫(大分)

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

神戶中	市川 茂(三重)	東筑中	久我 正次(福岡)	第三神戶中	田中 正(兵庫)
鳥取一中	井上 正彦(鳥取)	豐津中	熊谷高次郎(福岡)	堺中	寺井 晋一(大阪)
伊都中	井脇富太郎(和歌山)	茨木中	阪本 信次(大阪)	專檢	中山 勝(北海道)
愛知一中	上野丕應務(三重)	大分中	佐藤 峻(大分)	木本中	西村 繁雄(三重)
濱松一中	内山 榮一(静岡)	豐橋中	生田 和夫(愛知)	矢掛中	西本 泰(岡山)
木本中	浦狩 芳次(三重)	刈谷中	鈴木日出年(愛知)	龍野中	林 清之(兵庫)
宇治山田中	奥田 敏夫(三重)	津山中	角南 吉雄(岡山)	第一工業	樋口 政藏(京都)
嘉穂中	奥野吉次郎(福岡)	第一中	關 市郎(愛知)	神戶中	深津 登(三重)
宇治山田商業	尾崎 啓一(三重)	大口中	關田竹次郎(鹿兒島)	掛川中	藤原 清(静岡)
岐阜中	小野木利尙(岐阜)	三豐中	高木 良太(香川)	小松中	藤基 廣次(石川)
妻中	大塚 温夫(宮崎)	宇治山田中	高城 昇(三重)	釜山中	卷尾 義男(岡山)
豐岡中	大濱 正道(兵庫)	膳所中	高橋 正孝(滋賀)	島原中	松本宗十郎(長崎)
裡里農林	大園 茂(鹿兒島)	桃山中	高橋 貴(群馬)	大連一中	松原 正一(愛知)
宇治山田中	勝田 義一(三重)	勵精中	高山 光男(三重)	防府中	三々本 新(山口)
群山中	加藤 辰男(廣島)	宮崎中	辰本 弘(大分)	中學濟々	宮井 轉志(熊本)

崇徳中	夜陣 吳郎(廣島)	刈谷中	加藤 淨(愛知)	宇治山田中	南角 清(三重)
尾張中	山田 幸雄(愛知)	宇治山田中	川北 正夫(三重)	諏訪中	林 一郎(三重)
宇治山田中	山邊 伯(三重)	釜山中	後藤 薰樹(廣島)	八日市中	廣瀬英太郎(滋賀)
高雄中	楊 順徳(臺灣)	大垣中	佐竹 純耳(岐阜)	專檢	藤原三代治(静岡)
郡山中	吉川 隆利(奈良)	崇徳中	定光 昭(廣島)	米子中	船越元四郎(鳥取)
專檢	吉村 龍雄(長崎)	米子中	庄本 光政(鳥取)	今治中	松本由太郎(愛媛)
第二部	岡崎商業	岡崎商業	鈴木 修(愛知)	洲本中	宮川 俊直(兵庫)
都城中	愛甲 晋朔(宮崎)	大洲中	谷本 讓(愛媛)	萩中	宮崎 典也(山口)
時習中	秋吉 政雄(熊本)	惠那中	土屋 夏雄(岐阜)	下關中	八尾 春一(山口)
静岡中	池田 謙三(静岡)	白杵中	仲町 昌(大分)	宇都宮中	葭田 眞澄(栃木)
大分師範二部	伊藤 秀雄(山口)	第三神戶中	名村富佐男(兵庫)	郡山中	吉村 正雄(岡山)

第二學年

對島中 (二組副校長) 阿比留良一(長崎)	大垣中	栗野 敏夫(岐阜)	白杵中	石井 健次(大分)
柏崎中 阿部 重夫(新潟)	第三神戶中	池島 孝雄(兵庫)	浪速中	石原 義夫(岡山)
福岡中 天野 武雄(福岡)	第二岡山中	石井亥九夫(岡山)	熱田中	磯部 龍雄(愛知)

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

世羅中	泉	侃造(廣島)	京都三中	川口	雄三(三重)	浮羽中	田中	芳胤(福岡)
桑名中	伊藤	友雄(東京)	專檢	河野	正雄(大阪)	岐阜中	棚橋	正之(岐阜)
倉吉中	上野	政義(鳥取)	安藝中	木本	正次(徳島)	海南中	土井	公(和歌山)
勵精中	白井	廣道(三重)	郡山中	久米	安行(愛知)	刈谷中	土井	良平(愛知)
宇治山田中	宇仁	一彦(三重)	尾張中	兒玉權之助(三重)	宇治山田中	宇治山田中	東倉	保吉(三重)
膳所中	宇野	吾策(滋賀)	野澤中	小林	道德(長野)	宇治山田中	富増	修(三重)
大村中	嬉野	保(長崎)	茨木中	郡	景吉(大阪)	神戸中	中澤	昇(神奈川)
浮羽中	江崎	菊太(福岡)	掛川中	佐藤	一枝(静岡)	宇治山田商業	中出	慎一(三重)
畝傍中	大谷	馨(奈良)	海南中	鹽崎	勳(和歌山)	豐中中	中原	誠一(岡山)
宇陀中	大森	正知(奈良)	福井中	(二組級長)清水	泰(福井)	岸和田中	鳴神	克巳(和歌山)
三豐中	岡田	森造(香川)	野澤中	大工原英夫(長野)	鞍手中	西尾	武人(福岡)	
宇治山田中	奥野	吉郎(三重)	中學明善	田上	吉秋(三重)	八女中	信國	進(福岡)
松山中	景浦	勉(愛媛)	洲本中	瀧口	清一(兵庫)	大口中	島野	榮治(鹿児島)
明倫中	加藤	敬明(愛知)	津中	田所	掛治(三重)	姫路中	長谷川隆吉(兵庫)	
鶴岡中	金山	美正(山形)	中學傳習	田中	通雄(福岡)	濱松一中(二組級長)	平山	敏郎(静岡)

第一學年

武義中	深川	學(岐阜)	今治中	眞鍋	次郎(愛媛)	熱田中	山田	春隆(愛知)
大津中	福江	芳朗(山口)	對島中	水野	晶(愛知)	吳一中	山本	秀夫(廣島)
粉河中	藤岡	英夫(和歌山)	田川中	宮永	駿逸(福岡)	畝傍中	吉川	槍一(奈良)
多度津中	藤田	勝重(香川)	豐津中	村上	俠輔(福岡)	高松中	吉本	隆平(香川)
柏原中	藤田	賢次(兵庫)	白杵中	村上	研三(大分)	中學傳習	與田	俊夫(福岡)
朝倉中	古野日出男(福岡)		津中	村瀬	隆(三重)	桑名中	渡部	一男(三重)
聖峰中	(三組)古家	寅市(香川)	長岡中	桃田	忠雄(新潟)	佐原中	渡邊	定則(茨城)
若松中	保里	安藏(福岡)	濱田中	安田	正臣(鳥根)			
津山中(二組級長)	秋山	隆光(岡山)	海草中	上山	榮治(和歌山)	八女中	岡本	立木(福岡)
成章中	荒木	正二(愛知)	名古屋中	萩野	長雄(愛知)	宇陀中	大東	稔(奈良)
柏崎中	池田	正司(新潟)	愛知中	小栗	勝彦(岐阜)	三豐中	大村	豊秋(香川)
防府中	井上	五男(山口)	防府中	尾中	房人(山口)	見付中	大場	重正(静岡)
宇佐中	井上	平(大分)	小牧中	大崎	正男(三重)	熱田中	各務	侃(岐阜)
金澤二中(二組級長)	上田	紀雄(福井)	宇治山田中	大西	正夫(三重)	福山誠之館中	開原	恒(廣島)

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名

東濃中	笠井 美保(岐阜)	倉吉中	小泉 義晴(鳥取)	東京六中	田中 敏夫(埼玉)
畝傍中	片岡 隆博(奈良)	宇治山田中	小林 誓六(三重)	米子中	辻橋 正彦(東京)
天城中	片岡 三東(岡山)	豐津中	米谷與八郎(福岡)	浪速中	虎尾 久彌(大阪)
韭山中	加藤 睦夫(愛知)	宇治山田中	金剛 春雄(三重)	宇治山田中	中井 浩(三重)
佐沼中	河原 誠一(岡山)	函館中	齋藤 眞一(北海道)	伊都中	中尾 二郎(和歌山)
龍山中	鎌子 八郎(愛知)	津中	境 貞一(三重)	宇陀中	中捨 正道(奈良)
角館中	龜井 豐持(秋田)	岩國中	佐古 利正(山口)	宇治山田中	中谷 實(三重)
鹿屋中	城井 潔(鹿児島)	米澤興讓館中	佐藤 忠雄(山形)	八幡中	中西 邦武(福岡)
洲本中	北岡 正(兵庫)	立命館中	志達 宏(京都)	第一神戸中	中野 爲美(徳島)
斐太中	木戸口正夫(岐阜)	静岡中	白石 泰三(静岡)	宇佐中	成瀬 藤一(大分)
大村中	木下 義春(佐賀)	吳二中(三級校長)	白石 舜逸(廣島)	成城中	二條 豊基(東京)
名教中	木本 政男(廣島)	岡崎中(三級副校長)	鈴木 太吉(愛知)	第二鹿兒島中	西村 一意(鹿児島)
海草中	栗山 正夫(和歌山)	宇治山田中	多氣 幸彦(三重)	熱田中	二村 和雄(愛知)
惠那中	窪田 慎一(岐阜)	下關中	竹中 所孝(山口)	關西中	能勢 進(山梨)
柏崎中	劍持準一郎(新潟)	舞鶴中	多田 義雄(京都)	津島中	野口 進(愛知)

普通科生

第四學年

上田中	羽田 文平(長野)	中學傳習	戸次 靖(福岡)	甲府中	宮澤 優(山梨)
今治中	羽藤 清忠(愛媛)	宇治山田中	正木 一郎(三重)	臺南一中	宮原 敏雄(廣島)
甲陽中	馬場 壽吉(佐賀)	高松中	松岡 茂春(香川)	宇治山田中	武儀山與次郎(岐阜)
第二神戸中	藤戸 秀男(兵庫)	八幡中	松吉 高雄(福岡)	八幡中	森田 芳雄(福岡)
撫養中	藤原 豊司(徳島)	畝傍中	前野 孝一(奈良)	鹿島中	山崎 光男(佐賀)
茨木中	藤本 吉雄(兵庫)	第一中	丸山 喬之(愛知)	宇治山田中	横井 安彦(三重)
御船中	船原 儀(熊本)	安房中	三浦 義雄(千葉)	水口中	若村 武雄(滋賀)
桑名中	不破 義幹(三重)	鳥原中	宮崎平八郎(長崎)		
出身小学校	氏名 本籍				
宇治山田市進修	阿田市太郎(三重)	宇治山田市進修	岡田 稔(三重)	石樽	木村 太郎(三重)
龜岡	天岡 厚善(京都)	宇和島中	越智 大介(愛媛)	宮野	桑野 保幸(福岡)
中津中	池永 公義(大分)	豐國中	大神 文和(福岡)	神浦	月川千可良(長崎)
大郷	宇田川正明(鳥取)	今津中	川南 義雄(滋賀)	二郷	東 陸郎(三重)

第八章 學生生徒 第八 學生生徒氏名



玉瀧 古川 迪(三重) 宇治山田市進修 松岡 文雄(三重) 合志義塾普通科 吉田 政明(熊本)

濱島 松尾 恭重(三重) 縣立第三中 本島 千秋(石川)

第三學年

勝加茂 青山 博也(岡山) 廣尾 加藤 國幸(北海道) 園部中 西野 乙(京都)

神奈川縣寒川 板井 清直(大分) 川俣第二 北村 正一(三重) 宇治山田市修道 廣瀬 淳(三重)

奈良縣三輪 泉 秀夫(福井) 宇治山田市進修 倉谷 章彦(三重) 落合 松養 榮系(福岡)

京都府桃山中 伊藤 千尋(兵庫) 三崎第一 猿女 信廣(石川) 日和村 三浦 正大(島根)

惟信中 大原 英直(愛知) 大阪市鶴町 島野 盛美(和歌山) 朝倉中 宮崎 利行(福岡)

土居 沖田 幸夫(岡山) 日光第一 田中 正明(栃木) 眞穴第二 藥師神光春(愛媛)

土師 河野 通彦(鳥取) 松坂商業 田畑 嚴穗(三重)

父二峰 石丸 常盤(愛媛) 橫山 内山 壽(靜岡) 會津中 神 道正(福島)

宇治山田市進修 岩崎 清武(三重) 川崎 内田眞一郎(德島) 有漢 小原 正仁(岡山)

大阪府根根莊 植松 末彦(愛知) 大川中 岡 重臣(香川) 柏木農 齋藤 朗(青森)

第二學年

稻橋 佐藤 保三(愛知) 新居 野依 清(三重) 中洲 古河 正三(長野)

小學校教員養成所鹽月 眞福(大分) 維新實補豫科 林 義文(山口) 瀨川 本田 廣(長崎)

美古登 白根 邦人(廣島) 宮津中 林 正(京都) 西嶽 丸山 一夫(宮崎)

八幡濱第二 清家 貞恭(愛媛) 三重縣下御絲 早山 五月(神奈川) 湯里村 宮能 季夫(島根)

豐岡中 高木 吉彦(兵庫) 越智中 平田 祥穗(愛媛) 日野 安井 二郎(滋賀)

輪島中 能門 政利(石川) 堤ヶ岡 深井三七男(群馬) 中津山 油井 功(宮城)

第一學年

川口 石川 治(福岡) 立花 越智 通俊(愛媛) 樺太本斗 菅 清麻(樺太)

明倫館 今井 博夫(埼玉) 東京府戶塚第二 金指 徹(靜岡) 千布 鈴木 善一(山形)

大分 井上不二夫(福岡) 東興義塾 葛西 國男(青森) 久賀 角田 弘夫(長崎)

高松 大須賀 求(香川) 賀露 岸本 正次(鳥取) 四郷 世木 永幸(三重)

函館市寶 大谷 長正(北海道) 日進 木下 三郎(三重) 薦原 副野 憲(三重)

席田 大谷 正海(福岡) 資母 黒田 敏(兵庫) 船津 堤 貞敏(三重)

上字川 小倉 成俊(京都) 北串 小島 早苗(長崎) 美旗 豐濱 紀(三重)

有磨 小田 強(廣島) 宇治山田市修道 三東 邦男(島根) 菅谷 中倉 正夫(新潟)

第八章 學生生徒 第九 學生方面委員

一六〇

溫明	西川 順土(長野)	西城	御崎 峰弘(廣島)	大内山	村田 貞夫(三重)
天理中	平岡 克巳(奈良)	野尻	宮川 修(長野)		
高砂	廣瀬 正三(兵庫)	滋賀縣多賀	三好 博信(島根)		

第九 學生方面委員

第一區	本四	熊谷 貞雄	本四	秋田 幸雄
第二區	同	佐藤 毅	同	岸野 修
第三區	同	服部 知一	同	牧野 宏
第四區	同	三浦 東吾	同	矢野 旭香
第五區	同	吉田 喜和	同	長島 克巳
第六區	同	秋元 春雄	同	大樂 國久
第七區	同	金剛 正夫	同	吉田 千代藏
第八區	同	平野 直憲	同	櫻井 勝之進
第九區	同	中西 宮夫	同	大菅 正利
第十區	同	池山 聰助	同	笠井 京平

黎明寮

本四 森岡 四郎

第十 精華寮委員

久我 正次	阪本 信次	吉村 龍雄
内山 榮一	庄本 光政	宮川 俊直

第九章 卒業生

第一 卒業生出身在職府縣別表 (昭和五年七月一日調)

府縣別	本科		專科		合計	
	出身	在職	出身	在職	出身	在職
北海道	五	六	四	二	九	八
東 京	五	二〇	二	八	七	二八
京 都	二	二七	五	一一	二六	三八
大 阪	三〇	四三	四	九	三四	五二
神 奈 川	六	八	〇	一	六	九
兵 庫	二七	四	一八	一四	四五	五八
長 崎	一五	九	六	三	二二	一二
新 潟	一三	八	一〇	五	二三	一三
埼 玉	三	六	〇	〇	三	六
群 馬	五	三	一	二	三	三
千 葉	九	六	三	一	三	二
茨 城	六	一	三	二	九	二
栃 木	四	九	一	二	五	二
奈 良	二	一六	二	五	三	二
三 重	一四	八	一	九	二六	一七
愛 知	五	四	一	二	七	五
靜 岡	一八	二六	五	一	二三	三一
山 梨	四	三	一	一	七	四
廣 島	三	二	一	一	三	二
山 口	二	一七	七	五	九	二二
和 歌 山	一五	六	四	五	一九	一一
德 島	一五	六	二	一	一七	七
香 川	二四	一七	六	二	三〇	一九
愛 媛	二〇	一四	一八	八	三八	二二
高 知	七	三	一	〇	八	三
福 岡	六〇	五二	二四	二	八四	七三
大 分	二六	二二	一三	八	三九	二九
佐 賀	一〇	八	一	一	一一	九
熊 本	一五	一一	九	三	二四	一四
宮 崎	四	六	四	一	八	七
鹿 兒 島	七	一三	〇	二	七	一四
沖 繩	〇	二	一	一	一	三
臺 灣	〇	一四	〇	二	〇	一六

府縣別	本科		專科		合計	
	出身	在職	出身	在職	出身	在職
滋 賀	八	八	六	五	一四	一三
岐 阜	一六	一〇	七	二	二三	一三
長 野	一一	八	一	二	一二	一〇
宮 城	九	六	一	一	一〇	七
福 島	八	三	一	一	九	四
岩 手	二	五	二	〇	四	五
青 森	三	三	四	二	七	五
山 形	五	三	七	四	一二	七
秋 田	五	八	四	一	九	九
福 井	九	三	三	一	一二	四
石 川	九	一一	七	四	一六	一五
富 山	八	五	二	〇	一〇	五
鳥 取	九	四	三	〇	一二	七
鳥 根	九	二	一一	八	二〇	一〇
岡 山	三〇	一四	一三	七	四三	二二
廣 島	三	二	一	一	三	二
山 口	二	一七	七	五	九	二二
和 歌 山	一五	六	四	五	一九	一一
德 島	一五	六	二	一	一七	七
香 川	二四	一七	六	二	三〇	一九
愛 媛	二〇	一四	一八	八	三八	二二
高 知	七	三	一	〇	八	三
福 岡	六〇	五二	二四	二	八四	七三
大 分	二六	二二	一三	八	三九	二九
佐 賀	一〇	八	一	一	一一	九
熊 本	一五	一一	九	三	二四	一四
宮 崎	四	六	四	一	八	七
鹿 兒 島	七	一三	〇	二	七	一四
沖 繩	〇	二	一	一	一	三
臺 灣	〇	一四	〇	二	〇	一六

科別	卒業生		職業別	
	現在	死亡	計	別
朝鮮	0	30	0	110
樺太	0	40	0	100
計	0	70	0	210

第二 卒業生科別統計並職業分類別表

(昭和五年七月一日調)

職業別	卒業生		職業別	
	現在	死亡	計	別
神官神職	708	79	787	94
教員	2	0	2	1
官吏	300	70	370	23
庶業	1010	149	1159	117
無職	0	0	0	0
計	1010	149	1159	117

備考 實業ニ從事セル者及社員ハ庶業ニ徴兵服務中ノ者若ハ修學中ノ者ハ無職ノ中ニ計算セリ

第三 卒業生氏名 五十音順 (昭和五年七月一日現在)

(一) 本科卒業生 (七八七人) (×印ハ死亡)

○第一回 明治二十三年五月(二人)

名古屋市若宮八幡社々司 泉 館 家 理(三 重)  
神宮皇學館講師 中 西 健 郎(同)

○第二回 明治二十五年四月(六人)

磯 部 次 郎(三 重)  
磯 部 百 三(同)  
× 大北芳太郎(同)  
× 辻村梅太郎(同)

○第四回 明治二十八年四月(二人)

神宮皇學館長兼教授 森 田 實(同)  
長崎縣國幣中社 諏訪神社宮司 阿 知 和 安 彦(愛 知)

○第五回 明治二十九年三月(三人)

× 鹿 島 敏 夫(茨 城)  
神宮禰宜 石 川 勝(三 重)

○第三回 明治二十六年四月(六人)

三重縣志摩電鐵株式會社取締役 西 岡 敏 助(三 重)  
愛知縣社會事業協會 八 羽 七 五 郎(同)  
津島共存圖書記

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

× 中西弘滿(三重)  
長崎市中學東山學院教員 森 幹三郎(同)

○第六回 明治三十年四月(三人)

岡山縣倉敷商業學校教諭 岡 龜次郎(三  
重)  
名古屋市愛知國學院教員 館 信 磨(三  
重)  
福屋基千代(鳥根)

○第七回 明治三十一年三月(九人)

臺北帝國大學教授 安藤正次(東京)  
文政學部勤務 宇仁義一(三重)  
長崎市臺場町二丁目 大塚運象(熊本)  
自宅營業 栢原昌三(三  
重)  
× 木庭信喜(熊本)  
× 近藤弘代(三重)  
× 澤田米吉(同)

朝鮮官幣大社朝鮮神宮々司 高松四郎(福  
島)  
奈良縣官幣大社 山川鶴市(靜岡)  
廣瀨神社宮司

○第八回 明治三十二年三月(五人)

神宮皇學館助教兼教諭 金剛幸之助(三  
重)  
× 坂倉廣胖(同)  
× 檜垣恒之(同)  
× 三浦千畝(山形)  
福岡縣浮羽郡千年村 安元久雄(福  
岡)  
縣社八幡宮社司

○第九回 明治三十三年四月(三人)

× 小串重威(三重)  
× 齋藤傳左衛門(青森)  
× 平野直晃(三重)  
遠山正雄(香川)

○第十回 明治三十四年三月(二人)

遠山正雄(香川)

滋賀縣官幣大社  
多賀神社宮司

長谷外余男(石川)

○第十一回 明治三十五年三月(四人)

宮崎縣立宮崎農學校教諭 伊東增衛(宮崎)  
× 小野壽彦(大阪)  
宇治山田市會議員商業 河村政吉(三重)  
京都府官幣大社 額賀大直(千葉)  
八坂神社宮司

○第十二回 明治三十六年四月(三人)

× 葦津洗造(福岡)  
津市縣社八幡神社々司 石上清治(三重)  
吉野直人(長崎)

○第十三回 明治三十七年四月(十三人)

× 秋山鼎造(香川)  
× 伊藤千可良(兵庫)  
兵庫縣立山崎高等女學校校長 奥村奥右衛門(滋賀)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

神戸市立第一神  
港商業學校教諭

飯谷 完(廣島)  
鳥瀬左右磨(奈良)

兵庫縣官幣中社  
長田神社宮司

高根政次郎(大阪)

南滿洲撫順撫順神社神職

平部直(宮崎)

鹿兒島縣立出水中學校教員

水鳥川猪助(千葉)

岩手縣立花巻高  
等女學校教諭

宮内茂一(山形)

京都府官幣大社  
松尾神社宮司

× 宮尾 詮(福岡)

農業

矢野 裕(愛媛)

藪重吉(大阪)

○第十四回 明治三十八年三月(十一人)

香川縣立高松中學校教諭 泉川祐市(香川)  
× 川勝修治(兵庫)  
神宮禰宜 徵古館農業館長 阪本廣太郎(奈良)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

福岡縣小倉工業學校教諭 千田英太郎(福岡)  
 東京外國語學校教授 友枝照雄(福岡)  
 × 春木武豐(熊本)  
 高知縣立高知城北中學校教員 藤田龜三(京都)  
 神戸市立第二高等女學校教諭 松永卓(岡山)  
 香川縣立高松中學校教諭 三好金太郎(香川)  
 京都市立第二商業學校教諭 湯淺長次(大阪)  
 宇和島市縣社八幡神社司 渡部昇(愛媛)

○第十五回 明治三十九年三月(十二人)

紀伊無盡株式會社 赤井謙(和歌山)  
 田邊支店長 × 川崎重興(廣島)  
 × 神吉道治(福岡)  
 京都市立第一商業學校教諭 岸尾義雄(奈良)  
 大分縣立三重高等女學校教諭 須磨長信(大分)

三重縣立松阪商業學校教諭 多氣房次郎(三重)  
 × 筒井健(長崎)  
 × 野田諒(宮崎)  
 大分市私立岩田高等女學校教員 狹間俊雄(大分)  
 愛媛縣吉田町私立山下高等女學校教員 兵頭柳次郎(愛媛)  
 × 平野政次郎(奈良)  
 京都府立京都第一中學校教諭 山本正二郎(京都)

○第十六回 明治四十年三月(十五人)

神宮皇學館普通科授業囑託 大崎太藏(三重)  
 × 大槻弘毅(熊本)  
 廣島縣立福山誠之館中學校教諭 萩原五藏(福岡)  
 山形縣立宮内高等女學校校長 神谷哲太郎(三重)  
 京都府官幣中社 貴船神社司 龜井眞澄(新潟)  
 奈良縣丹波市町私立天理中學校教員 桐山平太郎(奈良)

大分縣北海郡大在村 郷社住吉神社司 佐藤馨(大分)  
 關東廳旅順第二中學校教諭 佐藤種徳(山形)  
 奈良縣立磯城農學校教諭 末本敏一(山口)  
 高橋恭介(兵庫)  
 × 中村篤胤(大阪)  
 熊本縣立山鹿高等女學校教諭中 村一衛(熊本)  
 × 福本彌吉郎(徳島)  
 東京市財團法人攻玉社中學校教員 本間健治(宮城)  
 × 松永益次(靜岡)

○第十七回 明治四十一年三月(十八人)

小倉市 武内鑛業本部會計検査役 上村加久治(福岡)  
 埼玉縣立商業學校教諭 大國雅二(三重)  
 大分縣立宇佐中學校教諭 小野健市(大分)  
 廣島縣國幣小社 沼名前神社宮司 金原利道(廣島)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

奈良縣官幣大社 石上神宮司 神尾清澄(滋賀)  
 福岡縣築上郡南吉富村宇野 農業 重本官治(福岡)  
 石川縣鹿島郡能登部村 郷社能登部神社司 清水一布(石川)  
 佐賀縣立三養基中學校校長 白井敏輔(佐賀)  
 廣島縣立三次高等女學校教員 杉浦信造(愛知)  
 大分縣立四日市高等女學校教諭 杉生薰(三重)  
 × 平川清水(熊本)

岡山縣小田郡三谷村 村社福賴神社掌 福武周夫(岡山)  
 岐阜縣岐阜農林學校教諭 堀部營松(岐阜)  
 神宮禰宜 滿井成吉(大阪)  
 岐阜市立岐阜商業學校教諭 宮部誠一(岐阜)  
 滋賀縣官幣大社多賀神社禰宜 好筆太(島根)  
 滋賀縣立水口高等女學校校長 本重且二(大分)  
 愛知縣豐橋中學校教諭 森田三郎(愛知)

○第十八回 明治四十二年三月(十九人)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

山梨縣立甲府高等女學校教諭赤岡重樹(山梨)  
 大分縣立中津中學校教諭秋吉三郎(福山)  
 京都市下鴨國史普及會栗野秀穗(宮城)  
 史蹟踏査部會長  
 × 壹岐秀雄(福岡)  
 岡山縣順正高等女學校教諭內田隆正(岡山)  
 長田眞幸(宮城)  
 靜岡縣官幣大社三島神社宮司加藤七郎(愛知)  
 秋田縣立能代高等女學校長坂本定徳(秋田)  
 石川縣石川郡松任町高島信二(石川)  
 縣社松任金劍神社々司  
 神宮禰宜 神宮神部署長 高原正作(福井)  
 田代三郎(福岡)  
 富尾兵馬(德島)  
 神宮權禰宜  
 熊本縣官幣中社八代宮々司中林善雄(奈良)  
 三重縣宇治山田高等女學校教諭成田豐次郎(兵庫)  
 名古屋市椚山第二高等女學校教諭西村芳藏(三重)

小倉商業學校教諭 本郷雅治(福岡)  
 和歌山縣立海南中學校教諭 前野孝治(奈良)  
 岩手縣國幣小社 駒形神社宮司 松島淺之助(和歌山)  
 名古屋市立第三高等女學校教諭 渡邊興衛(靜岡)

○第十九回 明治四十三年三月(二十人)

埼玉縣官幣大社 氷川神社宮司 足立達(島根)  
 東京府系譜學會主幹 太田亮(大阪)  
 福岡縣田川高等女學校長 大日方退藏(福岡)  
 三重縣立富田中學校教諭 小澤市藏(三重)  
 愛媛縣立宇和島中學校教諭 河野次郎(愛媛)  
 東洋紡績株式會社社員 佐藤忠(三重)  
 宇治山田市宮川工場在勤 柴田節三(愛媛)  
 靜岡縣島田高等女學校教諭 鈴木友吉(愛知)  
 神宮皇學館教授 諏訪幸藏(香川)  
 廣島市私立崇徳中學校教諭 諏訪幸藏(香川)

栃木縣立栃木高等女學校教諭

竹本仁平(愛媛)

× 長郷榮治(福岡)

臺灣臺南州立嘉義農林學校教諭

長東有鄰(香川)

奈良縣立畝傍中學校教諭

並木清太郎(千葉)

× 二宮正興(富山)

宮縣國幣中社志波彦神社鹽竈神社

宮司古川左京(德島)

大阪府立市岡中學校教員

三村漸(香川)

× 宮原豐四郎(宮崎)

福岡縣八幡中學校教諭

森岡俊三(愛知)

× 山本謙三(三重)

× 横山正則(高知)

○第二十回 明治四十四年三月(廿二人)

栃木縣別格官幣社 唐澤山神社宮司  
 熊本縣立八代高等女學校教諭

秋元視之(宮崎)

石川守雄(福岡)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

愛知縣西尾中學校教諭

今泉一雄(奈良)

兵庫縣立第一神戶商業學校教諭

置鹽敬作(兵庫)

香川縣盡誠中學校教員

小田猪一郎(香川)

× 鍵原信一(愛知)

庶業

笠井眞次郎(三重)

石川縣國幣大社氣多神社宮司

河井吉太郎(三重)

關西學院文學部教授

鎌田春雄(大阪)

別府市郷社八幡朝見神社々司

神喜久男(大分)

× 栗本八郎(三重)

大分縣立佐伯中學校教諭

信田顯(愛媛)

岡崎市立商業學校教諭

杉浦佐助(愛知)

× 中尾眞(愛媛)

千葉縣國幣中社玉前神社宮司

中村政藏(三重)

廣島縣官幣中社嚴島神社禰宜

野坂元定(廣島)

大分縣宇佐郡龍王村神職

林正木(大分)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

三重縣立宇治山  
田中學校教諭 堀田房次郎(愛知)  
靜岡縣立二俣高  
等女學校教諭 堀井亦三(三重)  
千葉縣君津郡木更津町  
鄉社八劍神社々司兼木  
更津中學校教諭 八劍 功(千葉)  
× 山口 清(新潟)

○第廿一回 明治四十五年三月(廿一人)

× 仰木 岩吉(福岡)  
愛媛縣吉田中學校教諭 阿部 重剛(愛媛)  
青森縣立青森高  
等女學校教諭 稻林 貞次(福島)  
大阪府別格官幣社  
四條噺神社禰宜 植村 近平(大阪)  
愛媛縣溫泉郡潮見村  
鄉社阿沼美神社々司 大内 美信(愛媛)  
石川縣鹿島郡田鶴濱村々社 大森 正雄(石川)  
住吉神社々掌 越 義雄(奈良)  
門司商業學校教諭 × 小林 宗治(三重)

山口縣立深川高  
等女學校教諭 坂本峯三郎(廣島)  
南滿洲安東中學校教諭 佐藤 猛雄(岩手)  
東京帝國大學大學院學生 清水 眞澄(群馬)  
伏見市府社御香宮神社々司 三木 善三(京都)  
朝鮮京畿道龍山中學校教諭 長坂 眞頼(長野)  
福岡縣小倉高等女學校教諭 永野 政雄(福岡)  
兵庫縣立淡路高  
等女學校教諭 中山 謙治(三重)  
三重縣立飯南高  
等女學校教諭 野上 正篤(鳥根)  
早川 滿三郎(三重)  
兵庫縣國幣中社 宮本 庸平(長崎)  
出石神社宮司 村岡 力(京都)  
新潟縣立河原田  
高等女學校教諭 山口 忠三(三重)  
愛知縣成章中學校教諭 渡邊 眞一郎(愛知)

○第廿二回 大正二年三月(十人)

奈良縣立五條中學校教諭 荒張 清次(奈良)  
滿洲教育專門學校教諭 伊藤 伊八(靜岡)  
靜岡縣島田高等女學校教諭 小川 吉士(長野)  
廣島縣立廣島第二中學校教諭 唐崎 忠夫(廣島)  
名古屋立第二  
高等女學校教諭 小崎 慎一(愛知)  
靜岡縣立下田高等  
女學校教諭 小松 貞藏(秋田)  
秋田縣立大曲高等女學校教諭 藤重 彦(青森)  
德島縣立撫養高  
等女學校教諭 菅原 佑音(三重)  
大分縣立大分中學校教諭 外山 利雄(三重)  
南滿洲奉天中學校教諭 丸 良夫(鳥根)

○第廿三回 大正三年三月(廿一人)

神戸市神港中學校教諭 伊藤 勝次(長崎)  
× 岡本 祐澄(三重)  
× 笠井 亨(大阪)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

滋賀縣立彦根中學校教諭 笠井 久(熊本)  
靜岡縣立下田高等女學校教諭 川合 三次郎(三重)  
大阪府立生野中學校教諭 久保 田早苗(長野)  
臺灣臺北州淡水中學校教諭 黑住 安臣(岡山)  
山口縣防府町多々良中學校教諭 鈴木 秀夫(山口)  
京都府立舞鶴高等女學校教諭 武内 繁松(福井)  
神宮皇學館教授 鶴藤 幾太(岡山)  
山口縣立下關中學校教諭 永松 新治(大分)  
南滿洲撫順中學校教諭 中村 敏男(三重)  
山口縣立厚狹高等女學校教諭 野村 春一(山口)  
熊本縣立人吉高等女學校教諭 藤岡 晋(熊本)  
山口縣立安下庄中學校教諭 星野 源六(埼玉)  
靜岡縣立藤枝高等女學校教諭 丸山 帶三(靜岡)



第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

神奈川縣立小田原中學校教諭森 通(福井)  
長野縣長野高等女學校教諭 森 本 晃(京都)  
宮崎縣官幣大社宮崎神宮々司横山 秀雄(神奈川)  
神奈川縣立横濱第一中學校教諭 渡邊 直見(靜岡)

○第二十四回 大正四年三月(十四人)

香川縣國幣中社田村神社宮司稻生 一穂(三重)  
三重縣立津高等女學校教諭 大塚 俊夫(同)  
三重縣立宇治山田中學校教諭勝村 友三(同)  
× 加藤 介石(同)  
津市立高等女學校教諭 國府 規(同)(舊姓松村)  
秋田縣立秋田中學校教諭 高松 利男(宮城)  
兵庫縣立伊丹中學校教諭 竹内 正幹(廣島)  
京都府官幣大社平野神社宮司田村 晴胤(山口)  
大阪府立天王寺中學校教諭 富 藤 雄(和歌山)

京都府立京都第三中學校教諭兼京都府乙訓郡大原野村々社大歲神社々掌 長 島 正輝(京都)  
大阪市丸山尋常小學校校長 仲野 慶夫(大阪)  
新潟縣立長岡高等女學校教諭箕輪 哲之助(新潟)  
福岡市西南學院中學部教員 三松 莊一(三重)  
福岡縣久留米高等女學校教諭渡邊 卓(同)

○第二十五回 大正五年三月(二十六人)

大阪府立都島工業學校教諭 生 田 襄(大阪)  
橫濱市立橫濱商業學校教諭 石井 一作(神奈川)  
福岡縣久留米高等女學校教諭猪瀬 博愛(千葉)  
熊本縣立本渡高等女學校教諭上野 重博(同)(舊姓土屋)  
東京高等學校教諭 大塚 龍夫(福岡)  
臺北帝國大學文政學部文學科學生 大西 吉壽(京都)  
富山縣立礪波高等女學校教諭河合 正則(富山)  
奈良縣別格官幣社談山神社宮司 菅 貞幸(愛媛)

× 菊池英太郎(愛媛)

大阪府立阿部野高等女學校教諭 小 中正(大分)  
福岡縣朝倉中學校教諭 坂本 眞鈴(熊本)  
石川縣國幣中社白山比咩神社宮司 高原 美忠(岡山)  
朝鮮慶尙南道東萊高等普通學校教諭 田中 幸一郎(三重)  
福岡縣福岡工業學校教諭 田 增 關一(山口)  
兵庫縣立第一神戶中學校教諭多留政之介(兵庫)  
鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校教諭 中西 坂二郎(三重)  
廣島縣立甲山高等女學校教諭中村 瀧雄(廣島)  
神宮皇學館教授 西村 爲之助(滋賀)  
東京府立教學院立教中學教員兼信愛學院講師 花房 正雄(東京)  
大阪府立泉尾高等女學校教諭菱川 廣一(同)(舊姓片岡)  
和歌山縣立海草中學校教諭 古 河 順(石川)  
香川縣立丸龜高等女學校教諭堀家 澤太郎(香川)  
愛知縣津島中學校教諭 村 上 規矩(三重)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

大阪府立阿部野高等女學校教諭 保井 恒治(奈良)  
兵庫縣立龍野中學校教諭 山田 里海(廣島)  
北海道廳立帶廣中學校教諭 橫田 精一郎(兵庫)

○第二十六回 大正六年三月(二十人)

三重縣立桑名中學校教諭 乾 堅三(三重)  
島根縣國幣大社熊野神社宮司大島 乙丸(長崎)  
鹿兒島縣立第二鹿兒島中學校教諭 小田原 文三郎(岡山)  
名古屋市立第二商業學校教諭北川 憲男(三重)  
大阪府立天王寺商業學校教諭桑原 達雄(岡山)  
兵庫縣三田高等女學校教諭 兒玉 尊臣(兵庫)  
靜岡縣立掛川中學校教諭 小 山 正(靜岡)  
樺太廳大泊中學校教諭 坂井 武平(北海道)  
濱松市立高等女學校教諭 坂本 幸次郎(靜岡)  
北海道旭川市縣社上川神社々司 柴田 直胤(北海道)  
朝鮮咸鏡北道羅南中學校教諭壽福院 教輔(長崎)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

静岡縣立掛川中學校教諭 清 保 秀(靜岡)

福岡縣嘉穂高等女學校教諭 高山於菟猪(長崎)

福岡縣三池中學校教諭 × 辰元英吉(鹿兒島)

三重縣立工業學校教諭 頓田元穗(熊本)

愛知縣惟信中學校教諭 中林茂生(三重)

神宮權禰宜 服部幸次(愛知)  
檜垣貞治(三重)

兵庫縣立柏原中學校教諭 松岡實(同)

愛知縣第一中學校教諭 山田武司(同)

○第二十七回 大正七年三月(十九人)

愛知縣工業學校教諭 × 天野秋生(三重)

神戶市立第一神戶商業學校教諭 春日井 濱(愛知)  
大阪每日新聞社員 川西芳藏(兵庫)

本社編輯局在勤 加茂勝雄(茨城)

三重縣別格官幣社 菅貞好(愛媛)

結城神社官幣社

栃木縣師範學校教諭 北島貞男(福井)  
福岡縣立會津中學校教諭 紀國千秋(福岡)

德島縣立富岡中學校教諭 小林康太郎(德島)

金光教布教師大阪府 近藤照道(三重)

中河內郡小坂町金光 朝小坂小教會所在勤 櫻井清(長崎)

朝鮮慶尙北道大邱 高等女學校教諭 澤山孝之助(三重)

愛知縣西尾高等女學校教諭 莊司直治(千葉)

神戶市關西學院中學部教員 多村知常(三重)

大分縣立杵築中學校教諭 垂永忠夫(福岡)

福岡縣築上郡南 吉富村自宅營業 靜岡縣立靜岡商業學校教諭 辻田健治(愛知)

大分縣立宇佐中學校教諭 德光吾一(大分)

山口縣立小郡農業學校教諭 長田敬房(山口)

愛知縣一宮中學校教諭 本庄春彦(愛知)

富山縣立石動高等女學校教諭 山森今人(富山)

○第二十八回 大正八年三月(二十九人)

豐橋市立商業學校教諭 足立熊雄(岐阜)

山口縣立防府高等女學校教諭 池山松雄(愛知)

秋田縣立能代高等女學校教諭 伊藤 茂(秋田)

滋賀縣立八日市中學校教諭 井上磯右衛門(滋賀)

石川縣立金澤第一中學校教諭 木勢岐(石川)

× 久保田紀都(廣島)

愛媛縣立大洲中學校教諭 黒川惣一郎(愛媛)  
金光教布教師金光 教字治山田教會所在勤 高阪正太郎(同)

× 古守實正(山口)

堺市立堺商業學校教諭 近藤 潔(三重)

愛知縣知多郡半田町 合資會社同盟書林社員 神原 葆(愛知)  
門司商業學校教諭 佐々木博愛(鳥取)

滋賀縣立長濱農學校教諭 佐治 正(京都)

沖繩縣官幣小社波上宮々司 佐藤 東(大分)

× 雜賀清重(德島)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

奈良縣立畷傍中學校教諭 小竹譽夫(和歌山)

新潟縣國幣中社彌彦神社禰宜鈴 木彦雄(新潟)

朝鮮慶尙北道大邱中學校教諭 高橋武臣(大分)

神戶市立第三神戶商業學校教諭 出口貞二郎(和歌山)

神宮皇學館教授 早川 祐吉(千葉)

九州帝國大學講師 原田敏明(熊本)

法文學部勤務 東竹眞澄(京都)

滋賀縣女子師範學校教諭 二見景雄(神奈川)

北海道廳立函館高等女學校教諭 政所喜澄(北海道)

石川縣立七尾中學校教諭 水野左近(石川)

京都府別格官幣社 豐國神社官司 宮崎清章(德島)

長野縣伊那中學校教諭 宮永久雄(鳥取)

三重縣立鈴鹿高等女學校教諭 村田忠郎(三重)

和歌山縣立橋本高等女學校教諭 柳野康英(和歌山)

○第二十九回 大正九年三月(二十四人)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

大分縣立大分中學校教諭 縣 五 六(大分)  
 神戸市關西學院中學校教員 池部宗七(三重)  
 廣島縣御調郡吉和村々社 八幡神社々掌 浮田彦磨(廣島)  
 臺灣臺北州立臺北工業學校教諭 大場則雄(岐阜)  
 宮城縣立仙臺第一中學校教諭長 田雅太郎(宮城)  
 山口縣立下關中學校教諭 河村善也(山口)  
 神宮皇學館教諭 來田親明(三重)  
 愛知縣丹羽高等女學校教諭 鬼頭滿夫(愛知)  
 栃木縣立烏山中學校教諭 草野武一(茨城)  
 兵庫縣立第二神戸中學校教諭光 在哲三(大阪)  
 愛媛縣越智中學校教諭 坂本總夫(岡山)  
 三重縣立木本中學校教諭 高木孝太郎(京都)  
 青島居留民團立青島日本中學校教諭 田上捨四郎(岐阜)  
 山口縣立柳井中學校教諭 爲貞千秋(岡山)  
 朝鮮官幣大社朝鮮神宮禰宜 手塚道男(栃木)

× 鳥羽彌太郎(三重)  
 虎尾文平(德島)  
 新潟縣立柏崎中學校教諭 中野二三郎(新潟)  
 朝鮮全羅北道群山中學校教諭西岡熊藏(三重)  
 兵庫縣立小野中學校教諭 平川隆一(岡山)  
 × 保坂誠實(新潟)  
 香川縣立三豐中學校教諭 細川敏太郎(香川)  
 朝鮮京城師範學校教諭 宮原眞太(福岡)  
 大阪府立八尾中學校教諭 安岡俊一(三重)

○第三十回 大正十年三月(二十五人)

愛知縣明倫中學校教諭 秋山精一(群馬)  
 三重縣立神戸中學校教諭 伊藤左中(岐阜)  
 三重縣立松阪商業學校教諭 岩尾義文(德島)  
 愛知縣刈谷中學校教諭 山上和二郎(兵庫)  
 × 奧海涉(宮城)

臺灣臺南師範學校教諭 梶原龍三(三重)  
 朝鮮平安南道平壤中學校教諭川本皓(愛知)  
 東京帝國大學文學部史料編纂官補 後藤丹治(三重)  
 愛媛縣立今治中學校教諭 佐藤剛(廣島)  
 新潟縣立新潟中學校教諭 澤田可雄(新潟)  
 田中東三郎(大阪)  
 愛知縣商業學校教諭 棚橋退藏(愛知)  
 神戸市私立親和高等女學校教員 田和寛一郎(兵庫)  
 大阪市立扇町商業學校教諭 辻吉郎(大阪)  
 東京府立第七中學校教諭 西山俊行(和歌山)  
 朝鮮咸鏡南道元山中學校教諭橋爪光定(山口)  
 宮城縣立角田中學校教諭 羽生三郎(宮城)  
 × 林順一(富山)  
 三重縣立尾鷲高等女學校教諭富士磐根(靜岡)  
 福岡縣中學傳習館教諭 藤村毅彦(熊本)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

岐阜縣岐阜中學校教諭 松原又一(岐阜)  
 靜岡縣立掛川中學校教諭 三井雄淳(愛知)  
 東京高等學校教諭 森本杉雄(和歌山)  
 三重縣立松阪商業學校教諭 山上武三(三重)  
 愛知縣刈谷中學校教諭 渡邊秀(愛知)  
 ○第三十一回 大正十一年三月(二十六人)  
 靜岡縣立濱松第一中學校教諭秋鹿朝成(靜岡)  
 福岡縣田川中學校教諭 上田胤榮(福岡)  
 大阪府立富田林中學校教諭 奥田直次郎(大阪)  
 福岡縣八幡中學校教諭 小野賢木(大分)  
 青島居留民團立青島日本中學校教諭 川本重善(福岡)  
 奈良縣立商業學校教諭 龜井良造(秋田)  
 × 岸田駿三(大阪)  
 宮崎縣立都城中學校教諭 肝付兼愛(鹿兒島)  
 鹿兒島縣立國分高等女學校教諭 佐土原果(鹿兒島)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

長崎縣立大村中學校教諭 志田 一夫(長崎)  
 三重縣宇治山田商業學校教諭正住亮太郎(三重)  
 熊本縣立熊本中學校教諭 進藤 坦平(舊佐賀)  
 京都府立桃山中學校教諭 瀬川 豐平(鹿兒島)  
 秋田縣師範學校教諭 高橋 知三(秋田)  
 神奈川縣官幣中社鎌倉宮福宜田 鳥 仲康(愛知)  
 大阪府立生野中學校教諭 谷 忠政(兵庫)  
 × 近尾俊二郎(富山)  
 岐阜縣斐太中學校教諭 土屋甚治郎(愛知)  
 長野縣松本第二中學校教諭 土井 保(長野)  
 × 當麻正雄(奈良)  
 福岡縣浮羽中學校教諭 中村氏實(福岡)  
 福岡縣浮羽中學校教諭 野田 貞吉(愛媛)  
 大分縣立竹田中學校教諭 平野 登(大分)  
 德島縣立麻植中學校教諭 藤原 榮久(高知)

北海道廳立余市中學校教諭 三輪田元伯(愛媛)  
 朝鮮黃海道沙里院高等女學校教諭 山下 高雄(岡山)  
 兵庫縣立伊丹高等女學校教諭山中 一明(三重)  
 兵庫縣立第二神戶中學校教諭米田 幸策(兵庫)

第三十二回 大正十二年三月(三十六人)

市立名古屋商業學校教諭 味岡 福(愛知)  
 岡山縣西大寺高等女學校教諭石井 吉馬(廣島)  
 新潟縣立高田高等女學校教諭市川 敬一郎(新潟)  
 京都府立京都第二中學校教諭井上 賴壽(三重)  
 × 上野 史(岡山)  
 佐賀縣立小城中學校教諭 小川 博史(岡山)  
 京都女子高等專門學校教授 岡本 隆男(和歌山)  
 改正 政次(大阪)  
 朝鮮全羅南道光州高等普通學校教諭 香川 嘉男(香川)  
 福岡商業學校教諭 蒲池 敏昶(福岡)

東京帝國大學文學部史料編纂官補

小鳥 鉦作(愛知)  
 福岡縣三池中學校教諭 小 島 晋(廣島)  
 大阪市電氣局書記庶務課勤務 野 盛文(和歌山)  
 × 清水 芳雄(奈良)  
 朝鮮京畿道京畿商業學校教諭高野 潮備(新潟)  
 愛知縣小牧中學校教諭 武田 八百頌(愛知)  
 大阪府立豐中中學校教諭 多田 美伸(奈良)  
 廣島縣立府中中學校教諭 德永 一夫(廣島)  
 大阪府官幣大社大鳥神社禰宜永井 曉(北海道)  
 臺北帝國大學文政學部文學科學生 能勢 賴賢(山梨)  
 朝鮮慶尙北道大邱高等普通學校教諭 廣 瀨 成之(岐阜)  
 大阪市立扇町商業學校教諭 譽田 千之(靜岡)  
 鹿兒島縣奄美高等女學校教諭松元 久義(鹿兒島)  
 × 箕浦 元信(愛知)  
 長野縣長野中學校教諭 宮川 禮次郎(長野)

第九章 卒業生 第三 卒業生氏名(本科)

朝鮮慶尙南道師範學校教諭 渡部 政德(長崎)

第三十三回 大正十三年三月(二十八人)

阿地部 幸雄(熊本)  
 兵庫縣立姫路高等女學校教諭生 島 覺(德島)  
 神奈川縣立小田原中學校教諭井下 義三郎(三重)  
 三重縣勵精中學校教員 岩 瀨 眞澄(同)  
 兵庫縣立工業學校教諭 浦田 保忠(佐賀)  
 宮内省式部職掌典補 川出 清彦(愛知)  
 長野縣松本女子師範學校教諭京 極 興博(長野)  
 栃木縣立石橋中學校教諭 熊谷 清高(福岡)  
 長野縣丸子農商學校教諭 栗山 茂(岐阜)  
 天理教布教師姫路市 紺谷 金彦(兵庫)  
 飾東教會在勤 齋藤 吉胤(新潟)  
 山形縣立新莊中學校教諭 白石 爲美(山口)  
 × 白石 爲美(山口)  
 埼玉縣立久喜高等女學校教諭鈴木 重道(北海道)